

# 長迫遺跡B地点

2014年

日田市教育委員会



長迫遺跡 B 地点全景（画面上が南東）



## 序 文

大分県日田市は、市街地の広がる小さな盆地を中心として、それを取り囲む山林が市域の85%を占める山間都市です。この地形的特性を生かした林業は「日田杉」というブランドを確立し、近代以降の日田の経済を支えてまいりました。しかし20世紀末に訪れたバブル崩壊により当市の林業も危機に瀕すこととなりました。そのような中で郷土の基幹産業を守るべく計画されたウッドコンビナート（日田高度総合木材加工団地）は、現在では日田の木材の一大集積地としての機能を担うとともに、敷地内的一角では、間伐材や建設廃材などの木屑を燃料とする国内最大級の木質バイオマス発電施設も稼動し、産業の発展と環境保全の両立を推進しております。

本書はこのウッドコンビナート建設事業に伴いまして発掘調査を実施した有田塚ヶ原遺跡群のひとつ、長迫遺跡（A・B地点）のうちB地点についての調査内容をまとめたものです。この調査では、古墳時代から奈良時代に谷の傾斜地を切り開いて營まれた集落が見つかっています。

貴重な遺跡の調査内容をまとめました本書が、文化財の保護や地域の歴史などの普及啓発に、また学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました地権者および関係者の方々、そして寒暖なく作業に従事いただきました地元の皆様方に対して、心から厚くお礼を申し上げます。

平成26年3月

日田市教育委員会

教育長 合原 多賀雄

## 例　　言

1. 本書は、市林政課が計画・実施したウッドコンビナート建設推進事業に先立ち、平成6年度～9年度に市教育委員会が実施した有田塚ヶ原遺跡群発掘調査のうち、平成8～9年度に実施した長迫遺跡（A・B地点）のB地点の内容をまとめた発掘調査報告書であり、ウッドコンビナート建設推進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の6冊目にあたる。A地点の調査については既刊である『長迫遺跡A地点』2013)。
2. 調査にあたっては、市林政課（当時）、地権者、工事関係者、大分県教育委員会および地元の方々にさまざまご協力をいただいた。
3. 本書に掲載した遺構実測は株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託したほか調査担当者が行い、製図は有限会社九州文化財リサーチに委託したほか武石和美（同整理作業員）の協力を得た。
4. 本書に掲載した遺物実測は、雅企画有限会社・株式会社九州文化財総合研究所・株式会社埋蔵文化財サポートシステム大分支店に委託したほか、調査担当者が行った。また製図・割付は株式会社埋蔵文化財サポートシステム大分支店に委託し、その成果品を使用した。
5. 空中写真撮影は株式会社スカイサーベイに委託し、その成果品を使用した。
6. 遺物の写真撮影は株式会社九州文化財総合研究所および株式会社埋蔵文化財サポートシステム大分支店に委託し、その成果品を使用した。
7. 掃図中の方位は第2・3図は真北、それ以外は磁北であり、文中の方位角は磁北で示している。なお、第2図の座標数値は、世界測地系に改正される前の日本測地系に基づいている。
8. 出土遺物および図面・写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
9. 本書の執筆・編集は行時桂子が行った。



日田市の位置

## 本文目次

I はじめに	1
(1) 長迫遺跡の調査の概要	1
(2) 調査組織	1
II 調査の内容	6
(1) 調査の概要	6
(2) 遺構と遺物	6
1) 壑穴建物跡	6
2) 掘立柱建物跡	35
3) 井戸	35
4) 土坑	38
5) 溝	43
6) その他の遺物	46
(3) 小結	49

## 挿図目次

第1図 ウッドコンビナート計画地(1期工事)遺跡 位置図 (1/10,000)	2	第11図 11～13号壗穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)	16
第2図 A・B地点全体図 (1/800)	3～4	第12図 14・15号壗穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)	17
第3図 B地点遺構配置図 (1/400)	5	第13図 16・17号壗穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)	19
第4図 1・2号壗穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80, 1/40, 1/4)	7	第14図 16～18号壗穴建物跡実測図 (1/80)	20
第5図 3号壗穴建物跡実測図 (1/80)	8	第15図 19・20号壗穴建物跡実測図 (1/80)	21
第6図 4号壗穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)	9	第16図 20・21号壗穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	22
第7図 5号壗穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)	10	第17図 21～24号壗穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80, 1/40, 1/4)	24
第8図 6・7号壗穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)	12	第18図 25～27号壗穴建物跡実測図 (1/80)	25
第9図 8・9号壗穴建物跡実測図 (1/80)	13	第19図 28～30・32号壗穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80, 1/40, 1/4)	26
第10図 9～11号壗穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)	14	第20図 31・33・34号壗穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)	28

第21図 35・35-2号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80、1/40、1/4) ..... 29	第27図 1・2号掘立柱建物跡実測図 (1/80) ..... 36
第22図 36号竪穴建物跡、カマド実測図 (1/80、1/40) ..... 30	第28図 3・4号掘立柱建物跡実測図 (1/80) ..... 37
第23図 36号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4) ..... 31	第29図 1号井戸、1～5号土坑実測図 (1/80) ..... 39
第24図 37号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80、1/4) ..... 32	第30図 6～10号土坑実測図 (1/80) ..... 41
第25図 38・39号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80、1/4) ..... 33	第31図 11～15号土坑実測図 (1/80) ..... 42
第26図 40～42号竪穴建物跡実測図 (1/80) ..... 34	第32図 16～21号土坑実測図 (1/80) ..... 44
	第33図 土坑・その他の出土遺物実測図 (1/4) ..... 45
	第34図 金属製品・鉄生産関連遺物実測図 (1/3) ..... 46
	第35図 石器・石製品実測図① (1/2、1/3) ..... 47
	第36図 石器・石製品実測図② (1/3) ..... 48

## 表 目 次

第1表 ウッドコンビナート建設に伴う有田塙ヶ原遺跡群の調査および関連文献表 ..... 2
第2表 土器観察表① ..... 50
第3表 土器観察表② ..... 51
第4表 金属製品・鉄生産関連遺物観察表 ..... 52
第5表 石器・石製品観察表 ..... 53

## 挿 入 写 真 目 次

写真1 ガラス質津 ..... 27
--------------------

## 写 真 図 版 目 次

卷頭写真図版 長迫遺跡B地点全景 (画面上が南東)	写真図版8 30～35-2号竪穴建物跡、1号掘立柱建物跡
写真図版1 長迫遺跡全景 (南から)	写真図版9 35～39号竪穴建物跡、1号井戸
写真図版2 1～5号竪穴建物跡	写真図版10 1・3・4号掘立柱建物跡、1・4～6号土坑
写真図版3 5～8号竪穴建物跡	写真図版11 8・11・14・15・17・19号土坑 調査区土層、作業風景
写真図版4 9～15号竪穴建物跡	写真図版12～18 出土遺物
写真図版5 14・16～20・22号竪穴建物跡	
写真図版6 21～26号竪穴建物跡、17号土坑	
写真図版7 26～30・32号竪穴建物跡。	

## I はじめに

### (1) 長迫遺跡の調査の概要

長迫遺跡はウッドコンビナート（日田高度総合木材加工団地）建設敷地内で確認された遺跡である。ウッドコンビナート建設事業は、日田市の基幹産業である林業が抱える諸問題への対策、および県が策定したグリーンボーリス構に基づき木材供給基地として計画されたもので、1期工事の開発面積約68haのなかで本遺跡を含め7つの遺跡が確認され、「有田塚ヶ原遺跡群」とした。

長迫遺跡は求来里川沿いに広がる冲積地から、東部丘陵に向かって入り込む二股に分岐した谷一帯に立地しており、便宜上南側の谷をA地点、北側の谷をB地点として、A地点の調査が終わり次第B地点の調査に着手した。A・B地点をあわせた現地での作業は平成8年12月16日～平成9年7月24日の間行った。A地点で検出された遺構は、古墳時代～古代の堅穴建物跡47軒、掘立柱建物跡7棟、井戸2基、土坑20基、溝3条、ビット多数である。B地点で検出された遺構については後述する。なお、A・B地点共通となる詳細な調査原因や経過、調査組織等は『長迫遺跡A地点』を参照いただきたい。また、遺跡の立地と環境についてもその報告書に詳細を述べているので、今回は省略した。

有田塚ヶ原遺跡群として調査を行った遺跡とその関連文献については次頁のとおりである。

### (2) 調査組織

今年度の報告書作成にかかる調査組織は下記のとおりである。

平成25年度／報告書作成

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 合原多賀雄（日田市教育委員会教育長）

調査事務 財津俊一（日田市教育庁文化財保護課長）

　　園田恭一郎（同埋蔵文化財係長）

　　武内貴彦（同専門員）

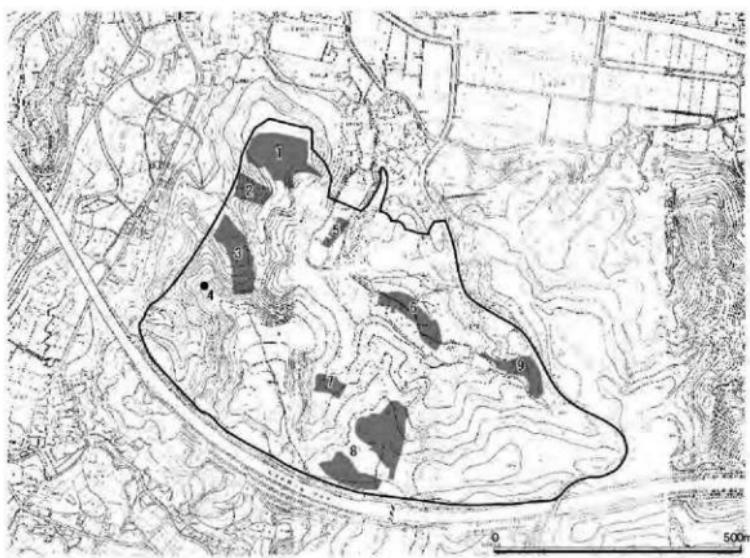
　　華藤善紹（同副主幹）

報告書担当 行時桂子（同主査）

調査員 若杉竜太（同主査）、渡邊隆行（同主査）、上原翔平（同主任）

第1表 ウッドコンビナート建設に伴う有田塚ヶ原遺跡群の調査および関連文献表

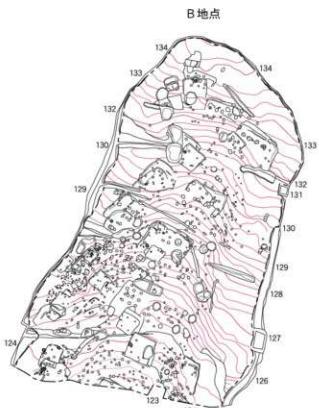
遺跡名	調査年度	関連文献名	報告書
平島横穴墓群	平成6～7年度	行跡志部他「5. 平島横穴墓群」『平成6年度（1994年度）日田市埋蔵文化財年報』 /日田市教育委員会/1996年 行跡志部他「2. 平島横穴墓群（HSY）」『平成7年度（1995年度）日田市埋蔵文化財年報』/日田市教育委員会/1997年	未報告
石ヶ迫遺跡A・B地区	平成7年度	行跡桂子「行跡遺跡2」日田市埋蔵文化財調査報告書第49集/日田市教育委員会/2004年	報告済
クビリ遺跡	平成7年度	行跡桂子「クビリ遺跡・有田塚ヶ原遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書第58集/日田市教育委員会/2005年	報告済
有田塚ヶ原遺跡	平成7年度	行跡桂子「クビリ遺跡・有田塚ヶ原遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書第58集/日田市教育委員会/2005年	報告済
祇園原遺跡	平成7～8年度	行跡桂子「祇園原遺跡Ⅱ（弥生・古墳時代遺構編）」日田市埋蔵文化財調査報告書第81集/日田市教育委員会/2007年 行跡桂子「祇園原遺跡Ⅱ（弥生・古墳時代遺物編）」日田市埋蔵文化財調査報告書第87集/日田市教育委員会/2008年 行跡桂子「祇園原遺跡Ⅲ（近世墓編1）」日田市埋蔵文化財調査報告書第96集/日田市教育委員会/2010年 遺道施行他「祇園原遺跡Ⅱ（近世墓編2）」日田市埋蔵文化財調査報告書第101集/日田市教育委員会/2011年	報告済
尾瀬2号墳	平成8～9年度	行跡桂子「尾瀬2号墳」日田市埋蔵文化財調査報告書第69集/日田市教育委員会/2006年	報告済
長迫遺跡A・B地点	平成8～9年度	行跡桂子「長迫遺跡A地点」日田市埋蔵文化財調査報告書第109集/日田市教育委員会/2013年 行跡志部「7. 長迫遺跡（NSK）」『平成8年度（1996年度）日田市埋蔵文化財年報』/日田市教育委員会/1998年 行跡志部他「2. 長迫遺跡A・B地点（NSK-A・B）」『平成9年度（1997年度）日田市埋蔵文化財年報』/日田市教育委員会/1999年	本報告 (B地点)
有田塚ヶ原遺跡群全般	—	「有田塚ヶ原遺跡群」（概要報告）/日田市教育委員会/1999年	—



1. 祇園原遺跡 2. 長迫遺跡B地点 3. 長迫遺跡A地点 4. 尾瀬2号墳 5. 石ヶ迫遺跡A地区  
6. 石ヶ迫遺跡B地区 7. クビリ遺跡 8. 有田塚ヶ原遺跡 9. 平島横穴墓群

第1図 ウッドコンビナート計画（1期工事）遺跡位置図（1/10,000）

Y=-2800



A 地点



0 20 40m

X=36000

X=35900

X=35800



第3図 B地点造構配置図 (1/400)

## II 調査の内容

### (1) 調査の概要（第2・3図）

B地点の調査区は二股に分岐した谷のうち北側の谷で、南東に向かってのびる。調査区の北東に接する丘陵上には、発掘調査により弥生～古墳時代の集落跡や総数50基を超える近世墓群が確認された祇園原遺跡が存在する。今回の調査区は東西方向に長さ約75m、南北方向に幅約48mの直線的な形状を呈し、調査面積は3,027m<sup>2</sup>である。調査区の最も高い場所で標高約135m、最も低い場所で約123m、最高約12mを測り、遺構検出面の標高はA地点とほぼ同じであるが、谷の長さが半分程度であるため、A地点に比べてかなり斜度のきつい斜面に立地している。そのため、1つの遺構で標高の低い方を半分程度欠く遺構が多く見られる。

試掘調査段階ではA地点と同様に、遺構検出面が大きく2層存在すると思われたため、最初に谷を横断するトレンチを入れて堆積状況を観察したところ、地表面から深さ約1mの古代の遺物包含層（暗茶褐色土）が認められ、この面から下層は黒色土ではあるが遺物の確認されない自然堆積層であることがわかったため、遺構検出作業はこの面で行うこととした。また黒色土の下には茶褐色の土層が存在していたが、黒色土の上面で遺構が確認されない箇所については、黒色土を除去して茶褐色土の面まで遺構検出作業を行った。

検出された遺構は、竪穴建物跡42軒、掘立柱建物跡4棟、井戸1基、土坑21基、溝8条とピット多数である。遺構は調査区全体に広がり、特に竪穴建物跡については、A地点では谷奥の標高の高い部分には見られなかつたが、B地点では高い部分まで分布し、なおかつ狭い範囲に何度も建て直しが行われた様子が看取できる。

以下、各遺構について述べる。なお遺構番号については、調査の進捗に従い割り振った番号をそのまま用いている。また各遺物の詳細については、巻末の遺物観察表にまとめている。

### (2) 遺構と遺物

#### 1) 竪穴建物跡

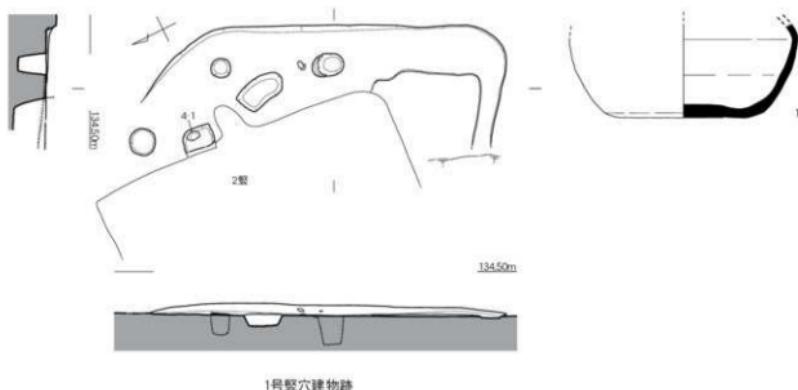
竪穴建物跡は計42軒検出された。平面方形または長方形を基本とすると思われ、カマドを有するものが多く見られる。調査区内においては先述のとおり狭く急な谷の全面にわたって分布しており、単独で存在する建物はほとんどなく、3～4軒切りあうものが多いなど、かなり密集している。

##### 1号竪穴建物跡（第4図、写真図版2）

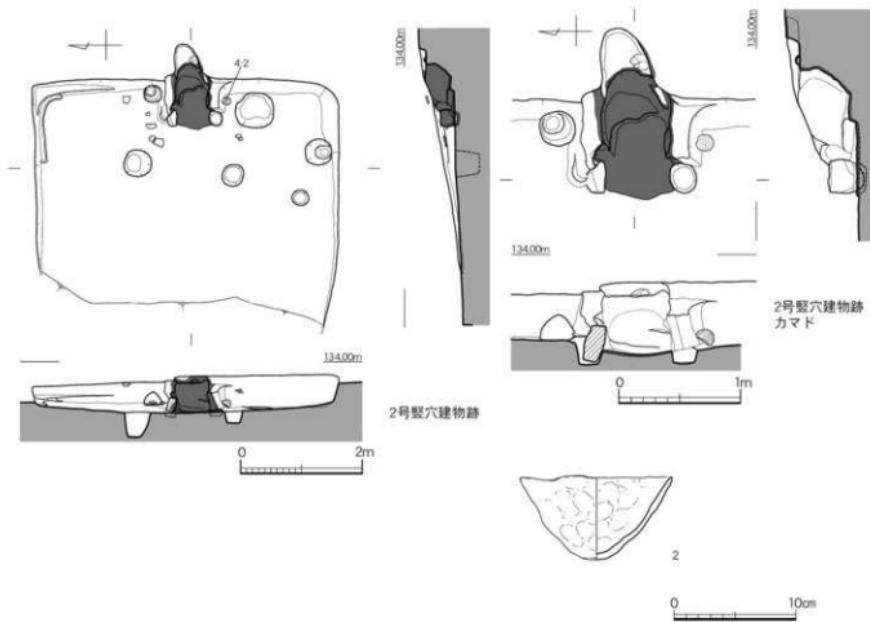
調査区東端、谷の最奥で検出された、平面不整形形を呈すると思われる遺構である。2号竪穴建物跡に切られる。南北軸約5.9m+α、東西軸約2.0m+α、床面までの深さは最大で約17cmを測る。標高の低い西半を欠く。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は検出できなかった。南壁沿いに壁際溝状に深さ2～3cmの浅い窪みが見られる。遺構内にカマドやその痕跡は検出されなかった。この遺構からは、平瓶と思われる須恵器（第4図1）が出土している。

##### 2号竪穴建物跡（第4図、写真図版2）

調査区東端、1号竪穴建物跡の西で検出された、平面方形を呈すると思われる遺構である。南北軸約5.0m、東西軸約3.8m+α、床面までの深さは最大で約53cmを測る。標高の低い西側を欠き、1号土坑に切られる。主柱穴はカマドの西で南北に並ぶ2つのピットと考えられ、本来は4本と思われるが、西側の列は検出できなかつた。主柱穴の深さは17～40cmを測る。北東隅から北壁沿いに壁際溝があり、深さは1～5cmである。東壁中央にカマドが備えられている。両袖とも存在し、袖幅は約55cm、袖の現存長は北側約55cm、南側約40cmである。



1号竪穴建物跡



第4図 1・2号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80、1/40、1/4)

袖石は北袖のみ存在し、南袖には袖石抜取痕が見られる。袖石の幅は約57cmである。カマドは建物壁より張り出して煙道を持つタイプで、煙道の長さは約60cmである。この遺構からは、カマドのそばで製塙土器と思われる手捏土器（第4図2）や橢形溝と思われる鉄滓（第34図21）が出土している。

#### 3号竪穴建物跡（第5図、写真図版2）

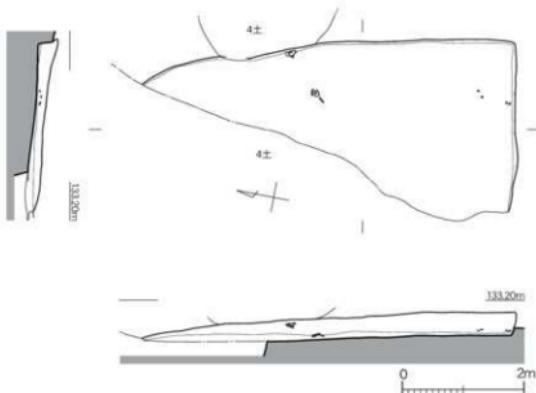
調査区東端やや北寄り、2号竪穴建物跡の北西で検出された、平面方形を呈すると思われる遺構である。南北軸約6.1m +  $\alpha$ 、東西軸約2.8m +  $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約34cmを測る。標高の低い北～西側を大きく欠き、遺構の中央部を4号土坑に大きく切られる。主柱穴や壁際溝、カマドや焼土は検出できなかった。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているものの、図示できるものはなかった。

#### 4号竪穴建物跡（第6図、写真図版2）

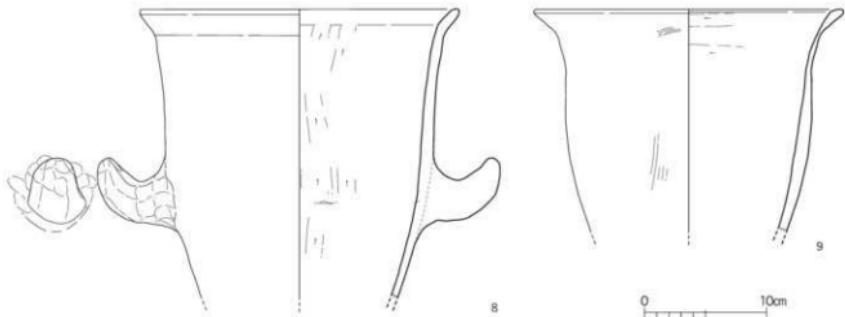
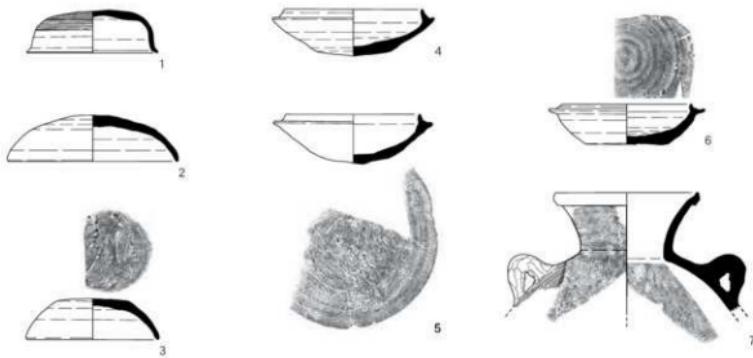
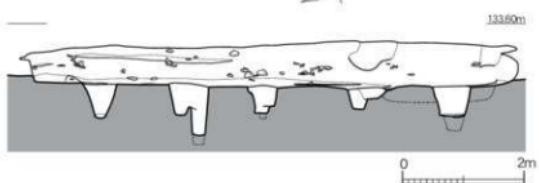
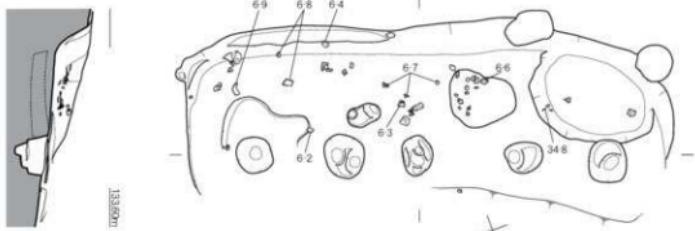
調査区東端中央部、2号竪穴建物跡の南西で検出された、平面圓丸方形を呈すると思われる遺構である。南北軸約7.9m、東西軸約2.5m +  $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約66cmを測る。標高の低い西半を欠く。主柱穴と考えられるピットが、南北方向に5つ検出されたが、これに対応すべき西側の柱穴は検出できなかった。柱穴の深さは29～95cmである。壁際溝やカマド・焼土は検出できなかった。この遺構からは須恵器壺蓋・壺身・提瓶、土師器瓶（第6図1～9）のほか、鉄鎌（第34図8）が出土している。

#### 5号竪穴建物跡（第7図、写真図版2・3）

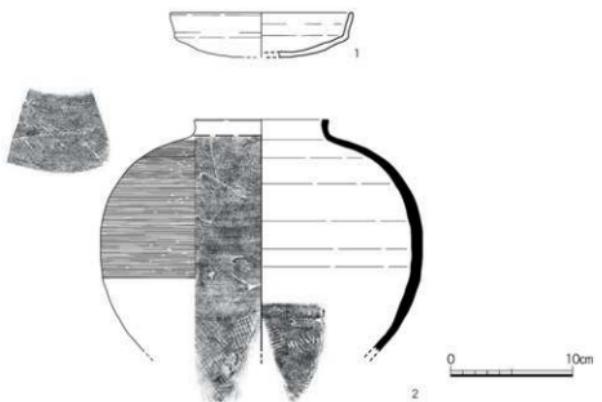
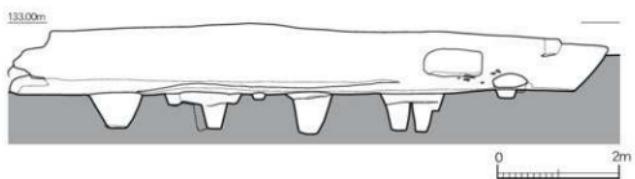
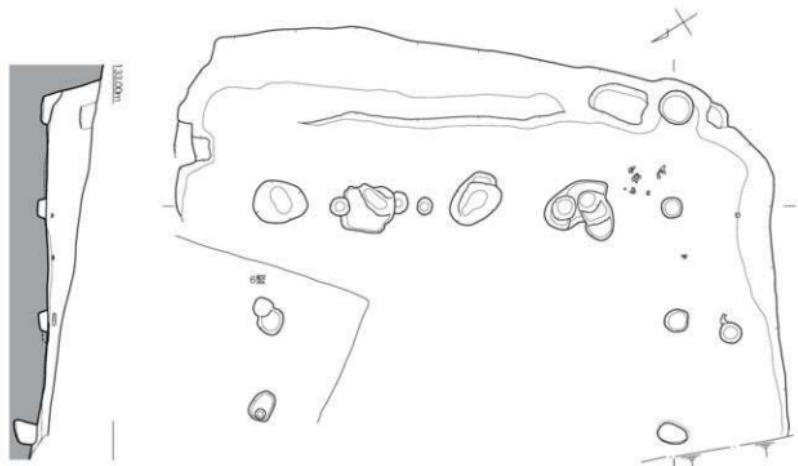
調査区東端南寄り、4号竪穴建物跡の南西で検出された、平面不整形方を呈すると思われる遺構である。南北軸約9.9m、東西軸約5.8m +  $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約96cmを測る。標高の低い西半を欠き、北側を6号竪穴建物跡に切られる。主柱穴と考えられるピットが東壁と並行して5つ、北壁・南壁と並行してそれぞれ3つずつ検出され。柱穴の深さは57～64cmを測る。竪穴建物というより、側柱の掘立柱建物を囲む掘り込みのようにも見える。壁際溝やカマド・焼土は検出できなかった。この遺構からは、須恵器壺や土師器壺（第7図1・2）が出土している



第5図 3号竪穴建物跡実測図（1/80）



第6図 4号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)



第7図 5号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80、1/4)

なお、この竪穴建物跡の外側、北・東壁に並行するようにピット列が見られ、この遺構に付随する柵列の可能性がある。

#### 6号竪穴建物跡（第8図、写真図版3）

調査区東端南寄り、5号竪穴建物跡の北で検出された、平面略方形を呈すると思われる遺構である。南北軸約3.9m、東西軸約2.2m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約40cmを測る。標高の低い西側を欠き、北壁を5号土坑に切られる。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝やカマド・焼土は検出できなかった。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。他に砥石（第35図4）が出土している。

#### 7号竪穴建物跡（第8図、写真図版3）

調査区東半中央部、3号竪穴建物跡の南西で検出された、平面方形を呈すると考えられる遺構であるが、北～西側を6号土坑・8号竪穴建物跡に大きく切られている。南北軸約5.2m+ $\alpha$ 、東西軸約2.9m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約53cmを測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝やカマド・焼土も検出できなかった。この遺構からは、須恵器环蓋・环身、土師器环・高环・鉢・甕・甑（第8図1～11）のほか、鉄鎌（第34図10・15）、砥石（第35図3）が出土している。

#### 8号竪穴建物跡（第9図、写真図版3）

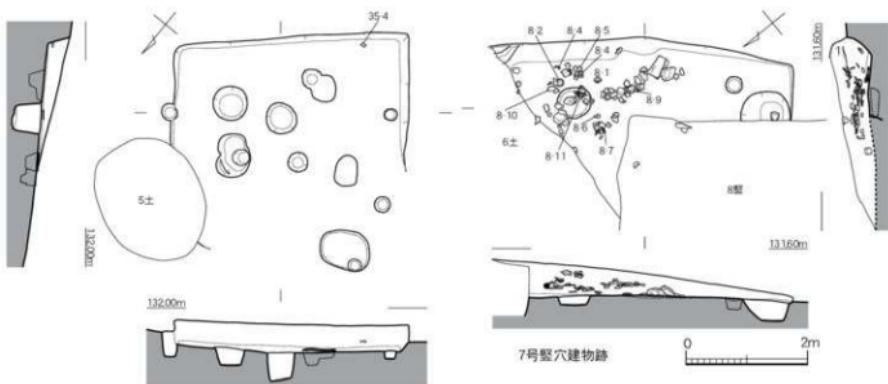
調査区東半中央部、7号竪穴建物跡の西で検出された、平面方形を呈する遺構である。北隅を6号土坑に切られる。南北軸約4.8m、東西軸約4.3m、床面までの深さは最大で約55cmを測る。主柱穴は4つで、深さは12～35cmを測る。東壁から南壁にかけて壁際溝があり、深さは3～10cmである。北壁中央に70cm×40cm+ $\alpha$ の規模の焼土および支脚痕の可能性があるピットが見られ、カマドの痕跡と考えられる。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

#### 9号竪穴建物跡（第9・10図、写真図版4）

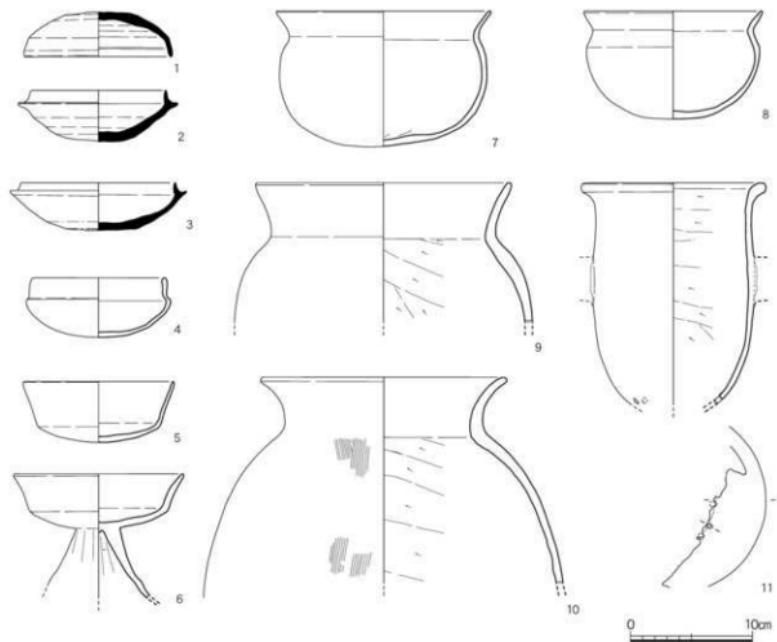
調査区中央部やや東寄り、8号竪穴建物跡の西で検出された、平面圓丸方形を呈すると思われる遺構である。標高の低い西半を欠き、10号竪穴建物跡を切り、南壁を11号竪穴建物跡に切られる。また3号掘立柱建物跡にも切られる。南北軸約5.7m、東西軸約3.2m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約37cmを測る。遺構内には複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝やカマド・焼土も確認できなかった。この遺構からは、土師器环・高环（第10図1～3）が出土している。

#### 10号竪穴建物跡（第10図、写真図版4）

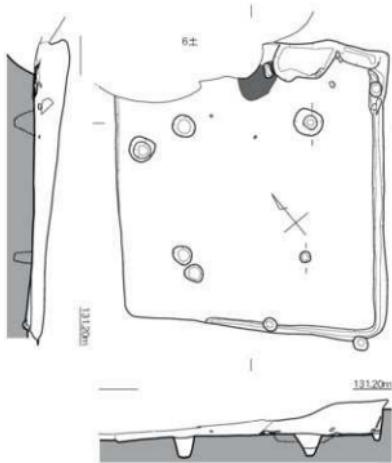
調査区中央部やや東寄り、9号竪穴建物跡の南で検出された、平面不整形形を呈すると思われる遺構である。標高の低い西側の大部分を9・11号竪穴建物跡に切られる。また2号掘立柱建物跡にも切られる。南北軸約5.9m+ $\alpha$ 、東西軸約4.8m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約68cmを測る。遺構内には複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝やカマド・焼土も確認できなかった。この遺構からは、須恵器环蓋・甕や土師器高环脚部（第10図4～6）のほか、鉄鎌（第34図12・14）が出土している。



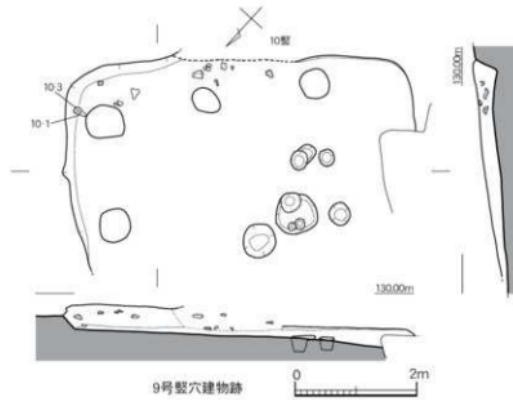
6号竪穴建物跡



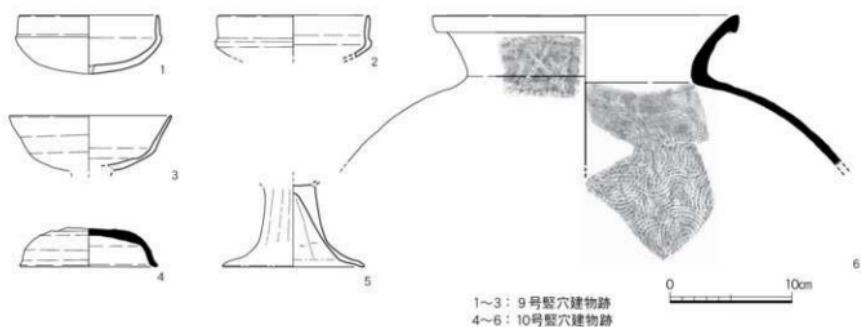
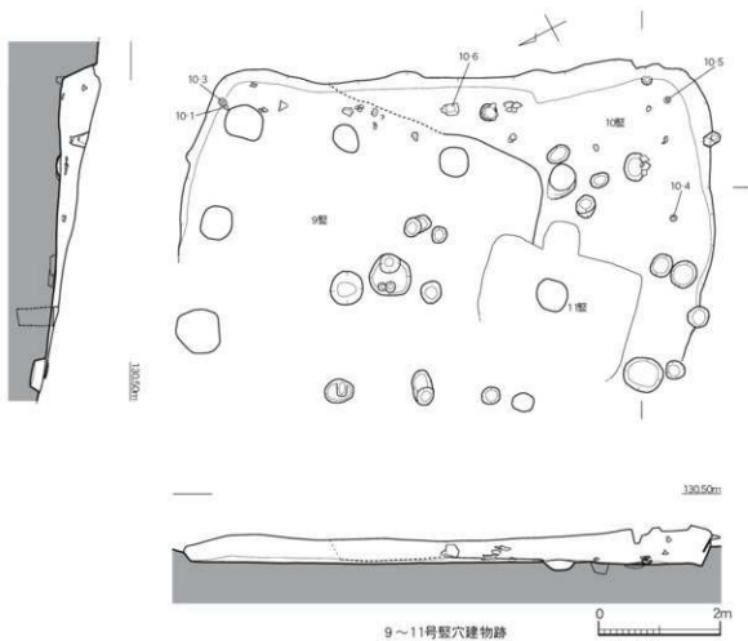
第8図 6・7号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)



8号竪穴建物跡



第9図 8・9号竪穴建物跡実測図 (1/80)



第10図 9～11号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80、1/4)

#### 11号竪穴建物跡（第10・11図、写真図版4）

調査区中央部やや東寄り、9・10号竪穴建物跡の西で検出された。平面方形を呈すると思われる遺構である。9・10号竪穴建物跡を切り、標高の低い西側を欠く。2号掘立柱建物跡に切られる。南北軸約2.5m、東西軸約1.8m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約18cmを測る。遺構内にはピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝は確認できなかった。東壁中央に壁面より張り出すタイプのカマドが備えられており、袖は北側のみ40cmほど残っている。袖石や支脚等の痕跡は確認できなかったが、焼土の範囲は約60cm×50cmを測る。この遺構からは、土師器皿（第11図1）が出土している。

#### 12号竪穴建物跡（第11図、写真図版4）

調査区中央部やや東寄り、9号竪穴建物跡の北で検出された。平面方形を呈すると思われる遺構である。13～15号竪穴建物跡に大部分を切られ、標高の低い南側を欠く。南北軸約4.7m+ $\alpha$ 、東西軸約1.4m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約50cmを測る。主柱穴や壁際溝、カマド等は確認できなかった。この遺構からは須恵器壺身・壺、土師器壺・皿（第11図2～5）が出土している。

#### 13号竪穴建物跡（第11図、写真図版4）

調査区中央部やや東寄り、12号竪穴建物跡の西で検出された。平面方形を呈すると思われる遺構である。14・15号竪穴建物跡に大部分を切られる。また12号竪穴建物跡を切るが、その境となる東側の壁は明確にすることができなかった。遺構内にピットが見られるが、主柱穴にはなり得ない。壁際溝やカマド等も確認できなかった。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土したが、図示できるものはなかった。

#### 14号竪穴建物跡（第12図、写真図版4・5）

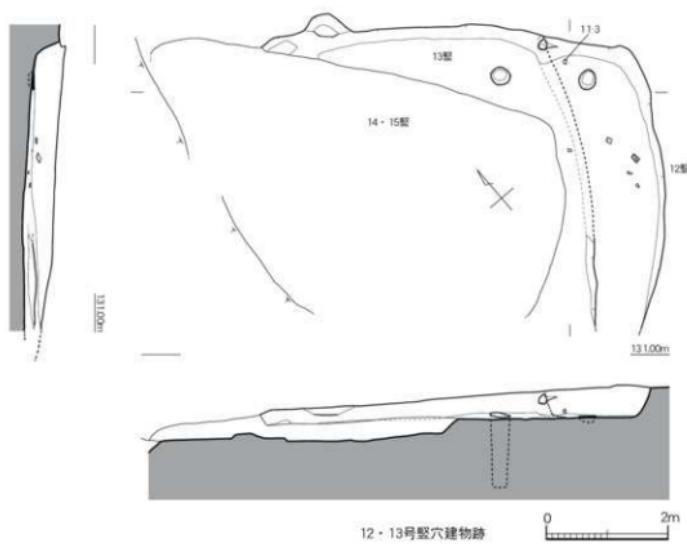
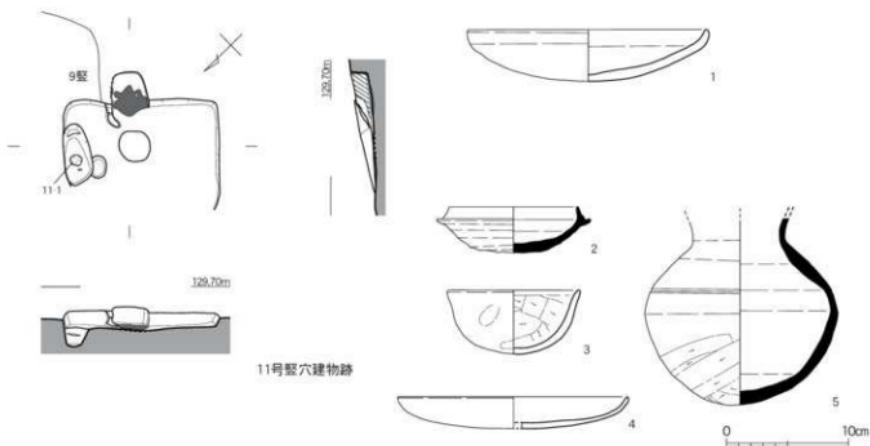
調査区中央部やや東寄り、13号竪穴建物跡の西で検出された。平面方形を呈すると思われる遺構である。12・13号竪穴建物跡を切る。西側は15号竪穴建物跡との切り合いがあるが、順番は不明である。標高の低い西半を欠く。南北軸約5.0m+ $\alpha$ 、東西軸約3.2m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約30cmを測る。遺構内には複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。2箇所で焼土が見られるが、床面から浮いており、カマドの痕跡とは考えられない。この遺構からは須恵器壺蓋、土師器壺・甑（第12図1～5）が出土している。

#### 15号竪穴建物跡（第12図、写真図版4）

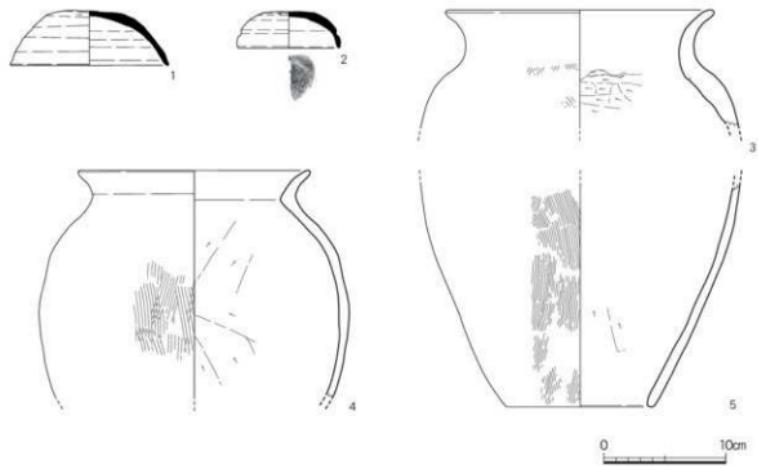
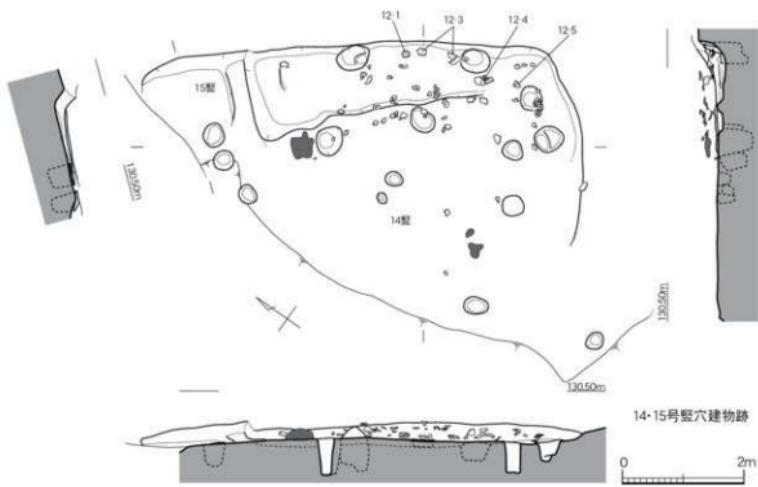
調査区中央部、14号竪穴建物跡に隣接して検出された遺構であるが、小規模であるため平面形は不明である。前述のとおり、14号竪穴建物跡との切り合いの順番も不明である。南北軸約1.7m+ $\alpha$ 、東西軸約1.5m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約30cmを測る。主柱穴・壁際溝・カマド等については不明である。この遺構からは遺物は出土しなかった。

#### 16号竪穴建物跡（第13・14図、写真図版5）

調査区中央やや北寄り、15号竪穴建物跡の北西で検出された遺構であるが、小規模であるため平面形は不明である。17・18号竪穴建物跡に大部分を切られるが、17号竪穴建物跡との切り合いラインははっきりしない。南北軸約2.5m+ $\alpha$ 、東西軸約0.7m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約46cmを測る。主柱穴・壁際溝・カマド等については不明である。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土したが、図示できるものはなかった。



第11図 11～13号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)



第12図 14・15号竖穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)

### 17号竪穴建物跡（第13・14図、写真図版5）

調査区中央やや北寄り、16号竪穴建物跡の西で検出された、平面不整方形を呈すると思われる遺構である。東隅は16号竪穴建物跡との切り合いのラインを明確にできなかった。西側を18号竪穴建物跡に大きく切られ、標高の低い南側を欠く。東西軸約7.0m、南北軸約5.2m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で45cmを測る。遺構内に複数のビットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝やカマド等の施設についても不明である。この遺構からは、須恵器壺蓋・壺身、土師器壺・甕（第13図1～4）が出土している。

### 18号竪穴建物跡（第14図、写真図版5）

調査区中央やや北寄り、17号竪穴建物跡の西で検出された、平面不整形を呈すると思われる遺構である。17号竪穴建物跡を切り、19号竪穴建物跡・8号土坑に切られる。西側は後世の畑の区画溝により削平されている。標高の低い南側を欠く。東西軸約5.8m+ $\alpha$ 、南北軸約3.4m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約45cmを測る。東西方向に3つ並ぶビットが主柱穴と考えられるがそれに対応する柱穴列は確認できなかった。主柱穴の深さは35～80cmを測る。壁際溝は検出できなかった。北壁やや内寄りに40cm×45cmの範囲で焦土が見られ、カマドの痕跡と考えられる。この遺構からは、土師器片や須恵器片が出土したが、図示できるものはなかった。

### 19号竪穴建物跡（第15図、写真図版5）

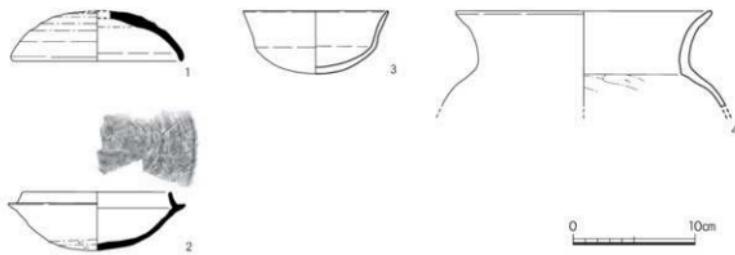
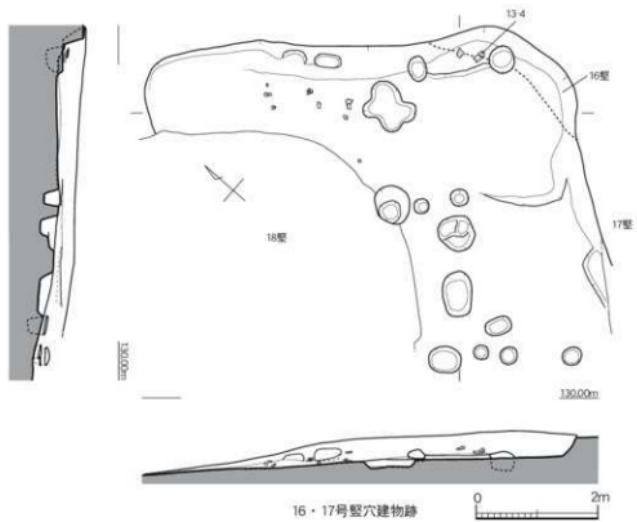
調査区中央やや北寄り、18号竪穴建物跡の西で検出された、平面不整形を呈すると思われる遺構である。18号竪穴建物跡を切り、9・13号土坑に切られる。北隅は後世の畑の区画溝により削平されている。標高の低い西～南にかけて大きく欠く。南北軸約4.3m+ $\alpha$ 、東西軸約1.9m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約40cmを測る。主柱穴や壁際溝、カマド等については不明である。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

### 20号竪穴建物跡（第15・16図、写真図版5）

調査区中央、19号竪穴建物跡の南で検出された、平面方形を呈すると思われる遺構である。21号竪穴建物跡を切り、22号竪穴建物跡や10・11号土坑に切られる。標高の低い西側を欠く。南北軸約9.7m+ $\alpha$ 、東西軸約7.3m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約110cmを測る、本地点で最大の竪穴建物跡である。遺構内に複数のビットが見られるが、主柱穴は不明である。北壁と東～南壁の一部に壁際溝が見られ、その深さは1～13cmを測る。北壁西寄りのやや内側に焼土が見られるが、床面から若干浮いており、カマドの痕跡とは考え難い。この遺構からは、須恵器壺蓋・壺身・甕・短頸小壺・高杯・壺や、土師器鉢・甕・甑の孔部（第16図1～21）のほか、摘鏃（第34図3）・鎗？（第34図4）の鉄製品や楕形津と考えられる鉄津（第34図22）、青銅製耳環（第34図20）など、多量多彩な遺物が出土している。

### 21号竪穴建物跡（第16・17図、写真図版6）

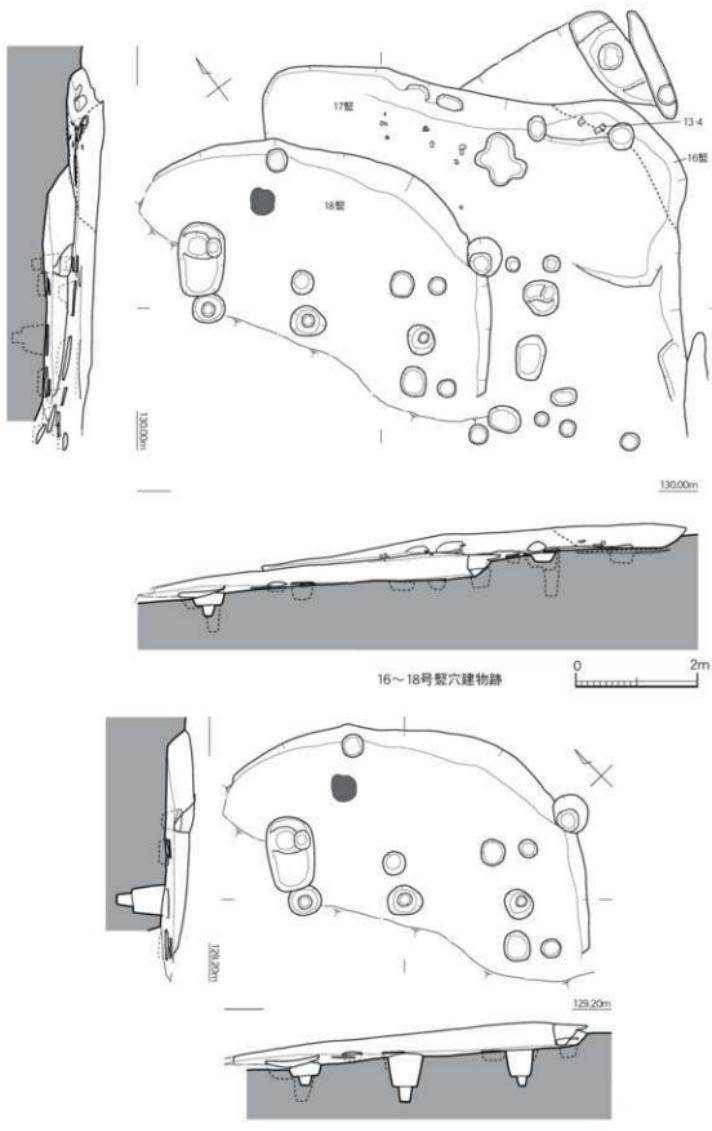
調査区中央、20号竪穴建物跡の北で検出された遺構であるが、小規模であるため平面形は不明である。北を9号土坑に、西～南の大部分を20号竪穴建物跡に切られる。南北軸約3.0m+ $\alpha$ 、東西軸約1.6m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約45cmを測る。主柱穴や壁際溝などは確認できなかった。東壁に壁面より少し張り出すタイプのカマドが備えられており、両袖とも14cmほど残存している。残存する袖幅は約70cmを測る。袖石は見られないが、南側の袖には袖石抜取痕が認められる。焼土の範囲は35cm×30cmである。この遺構からは、土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものは土師器甑の孔部片（第16図22・23）のみである。



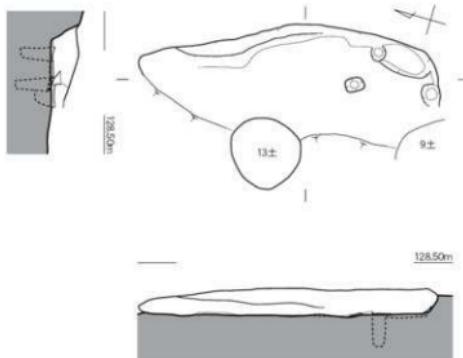
第13図 16・17号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80、1/4)

#### 22号竪穴建物跡（第17図、写真図版6）

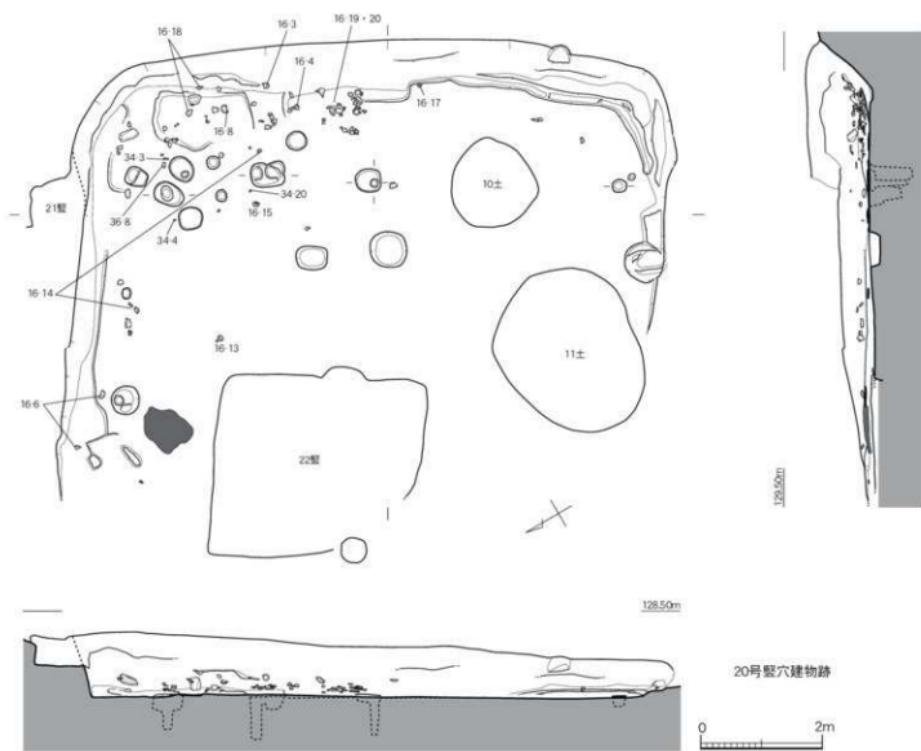
調査区中央、20号竪穴建物跡の北西で検出された。平面方形を呈する遺構で、20号竪穴建物跡を切る。標高の低い南西隅を欠く。南北軸約3.4m、東西軸約3.0m、床面までの深さは最大で約28cmを測る。主柱穴や壁際溝は確認できなかった。東壁やや南寄りに壁面より少し張り出すタイプのカマドが備えられており、南側の袖のみ約22cm残存している。袖石抜取痕は両袖とともに認められ、その幅は約30cmである。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。他に鉄鏃（第34図7）が出土している。



第14図 16~18号竖穴建筑物跡実測図 (1/80)



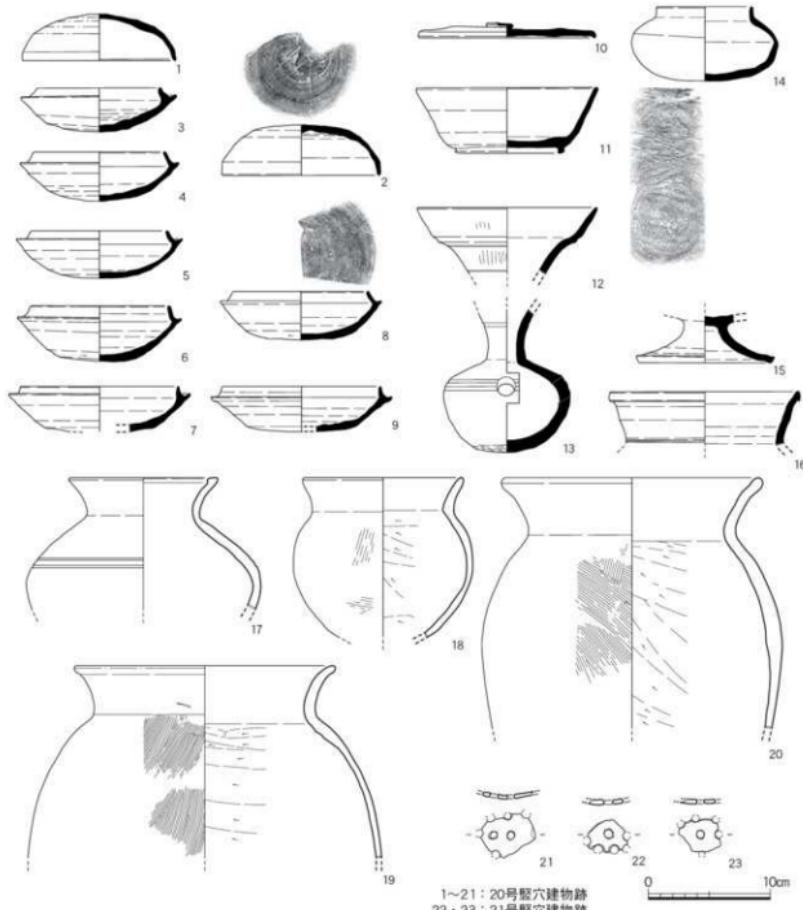
19号竪穴建物跡



第15図 19・20号竪穴建物跡実測図 (1/80)

23号竪穴建物跡（第17図、写真図版6）

調査区中央、22号竪穴建物跡の北西で検出された、平面長方形を呈すると考えられる遺構で、19号土坑に切られ、標高の低い西半を欠く。南北軸約3.3m、東西軸約2.1m、床面までの深さは最大で約25cmを測る。遺構内には複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝も確認されなかった。北壁中央に壁面より少し張り出すタイプのカマドが備えられており、天井石がカマド内部に崩落した状態で検出された。両袖とも残存しており、残存長は東側約47cm、西側約40cm、袖幅約45cmを測る。袖石も両袖とも残存しており、袖石幅は約45cm



第16図 20・21号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）

である。支脚痕として小ピットが検出されている。カマド前面や南隅には炭化物が広がっている。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。他に刀子（第34図5）が出土している。

#### 24号竪穴建物跡（第17図、写真図版6）

調査区西半北寄り、23号竪穴建物跡の北で検出された、平面方形を呈すると考えられる遺構である。26号竪穴建物跡と隣接または切りあっていると考えられるが、順番は不明である。遺構内を4号溝が横断している。南北軸約2.8m、東西軸約2.5m、床面までの深さは最大で約24cmを測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝も確認されなかった。遺構のほぼ中央に50cm×60cmの焼土が見られ、炉の可能性が考えられる。この遺構からは須恵器坏身や土師質土器小皿（第17図1・3）が出土しており、これらは26号出土の破片と接合したものである。ほかに砥石（第35図7）が出土している。

#### 25号竪穴建物跡（第18図、写真図版6）

調査区西半北端、24・26号竪穴建物跡の北で検出された、平面方形を呈すると考えられる遺構である。北半は調査区外へ続く。東西軸約3.9m、南北軸約1.9m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約18cmを測る。遺構内に検出された2つのピットが主柱穴と見られ、その深さは14~20cmである。壁際溝やカマド等は確認できなかった。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

#### 26号竪穴建物跡（第18図、写真図版7）

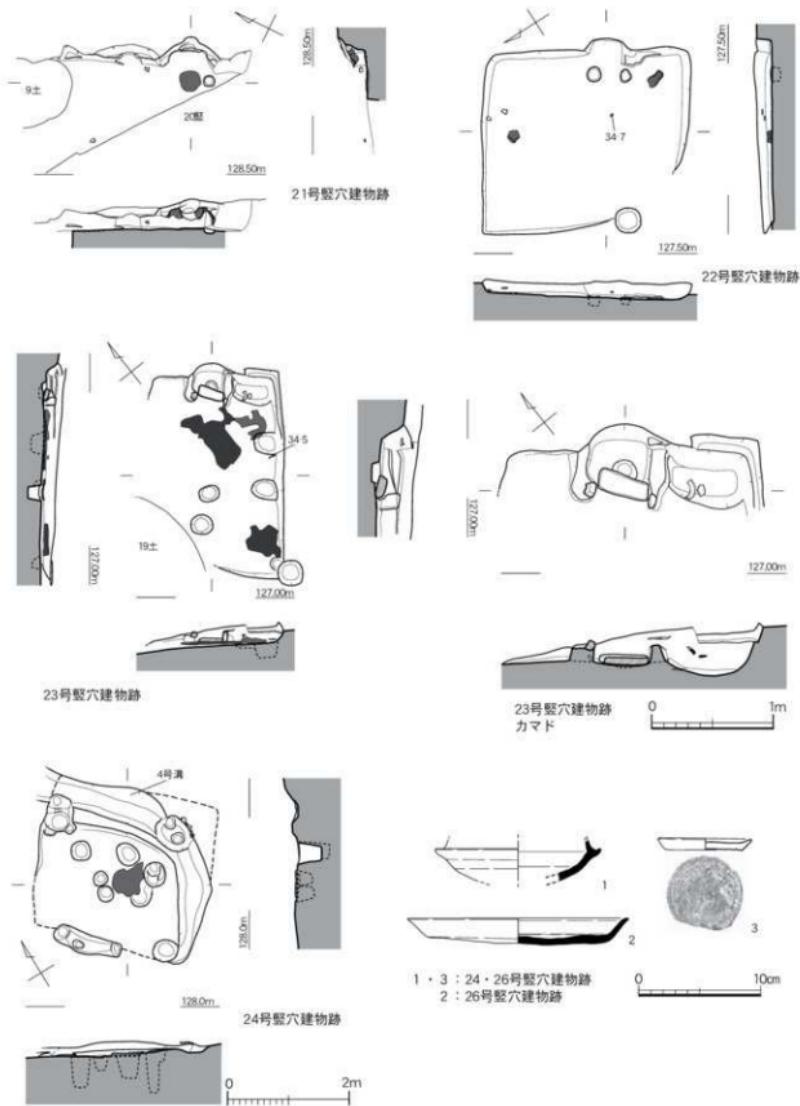
調査区西半北寄り、24号竪穴建物跡の西で検出された、平面方形を呈すると考えられる遺構である。24号竪穴建物跡と隣接または切り合っていると考えられるが、順番は不明である。遺構内を4・5号溝が横断している。南北軸約3.7m+ $\alpha$ 、東西軸約3.3m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約32cmを測る。遺構内に多数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝も確認できなかった。この遺構からは、24号竪穴建物跡出土遺物と接合した須恵器坏身や土師質土器小皿のほか、須恵器皿（第17図2）が出土している。

#### 27号竪穴建物跡（第18図、写真図版7）

調査区西半北寄り、26号竪穴建物跡の北西で検出された、平面長方形を呈すると考えられる遺構である。西の一部を30・32号竪穴建物跡に切られ、標高の低い西側を大きく欠く。東西軸約2.2m+ $\alpha$ 、南北軸約1.8m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で15cmを測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴とは考え難い。壁際溝は確認できなかった。カマドの構造や焼土は確認されていないが、東壁中央と思われる位置に煙道と思しき長さ約80cmの掘り込みが見られ、炭化物が多く検出されたため、本来はカマドが存在した可能性がある。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

#### 28号竪穴建物跡（第19図、写真図版7）

調査区西半北寄り、26号竪穴建物跡の西で検出された、平面長方形を呈すると考えられる遺構である。西側を29号竪穴建物跡に切られる。東西軸約4.2m+ $\alpha$ 、南北軸約3.8m、床面までの深さは最大で約56cmを測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。北壁の一部に深さ1~2cm程度の浅い壁際溝が認められる。南壁中央と思われる位置に壁面より張り出すタイプのカマドが備えられている。両袖とも残存しており、残存長は東側約42cm、西側約40cm、袖幅は約35cmである。袖石や抜取痕は確認できなかった。この遺構からは、土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。



第17図 21～24号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80, 1/40, 1/4)

### 29号竪穴建物跡（第19図、写真図版7）

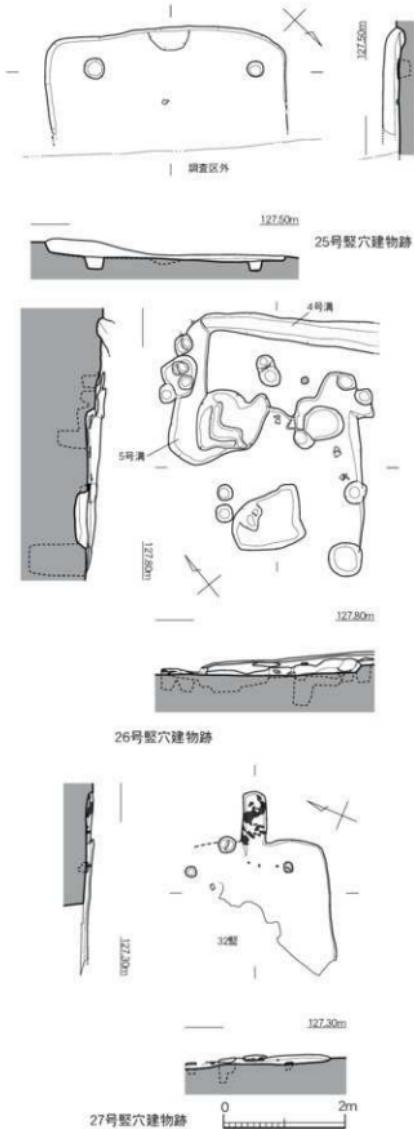
調査区西半北寄り、28号竪穴建物跡の西で検出された、平面不整形形を呈する遺構である。28号竪穴建物跡を切り、標高の低い南半を欠く。東西軸約3.2m+ $\alpha$ 、南北軸約2.0m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約17cmを測る。遺構内に複数のビットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝も確認できなかった。北壁東寄りの位置で25cm×40cmの範囲で焼土が見られ、焼土の両脇に袖石抜取痕のような小ビット（抜取痕幅約43cm）も存在することから、カマドの痕跡と考えられる。この遺構からは、土師器皿（第19図1）が出土している。

### 30号竪穴建物跡（第19図、写真図版7・8）

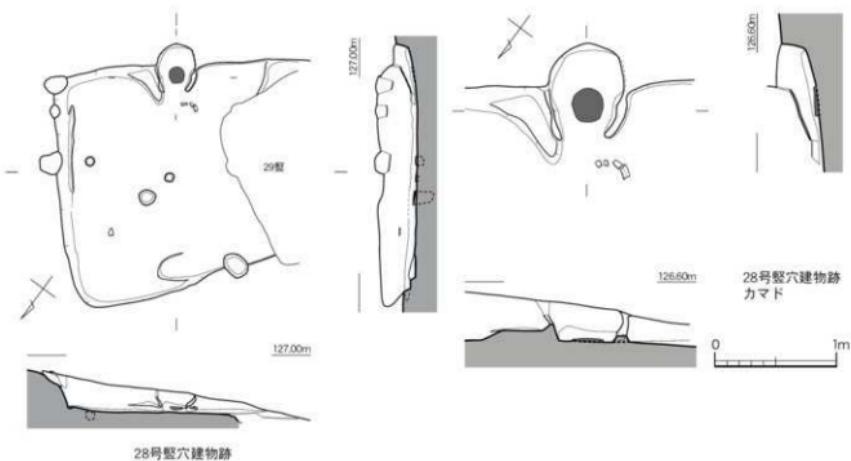
調査区西半北寄り、27号竪穴建物跡の北西で検出された、平面方形を呈すると考えられる遺構である。27・32号竪穴建物跡を切り、北を31号竪穴建物跡に切られる。東西軸約3.6m+ $\alpha$ 、南北軸約3.3m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約26cmを測る。遺構内に複数のビットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝も確認できなかった。南壁東寄りの位置に、焼土は見られないものの、カマドが備えられており、袖は東側のみ約40cm残っている。この遺構からは土師器皿や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

### 31号竪穴建物跡（第20図、写真図版8）

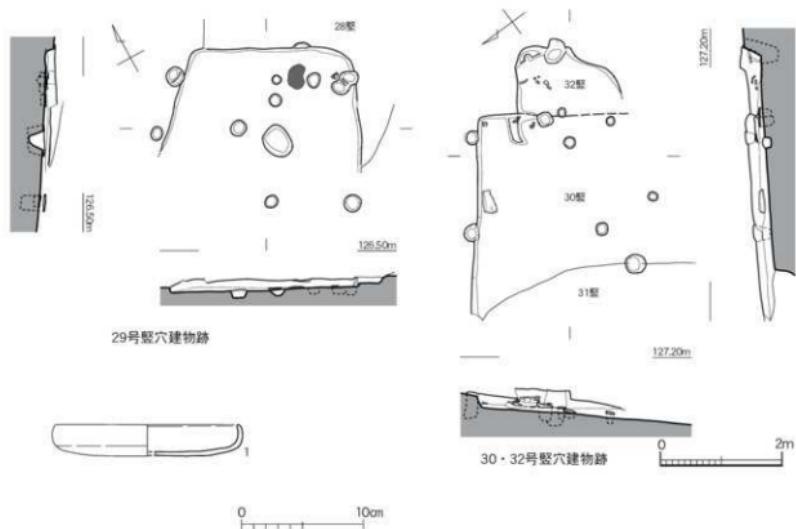
調査区西半北寄り、30号竪穴建物跡の北西で検出された、平面不整形を呈する遺構である。谷の斜面端部であるため、形状ははっきりしない。30号竪穴建物跡を切り、標高の低い西～南を大きくなぐく。南北軸約6.5m+ $\alpha$ 、東西軸約3.9m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約68cmを測る。遺構内に複数のビットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝やカマド等は確認できなかった。この遺構からは土師器蓋・壺・高壺（第20図1～3）が出土している。



第18図 25～27号竪穴建物跡実測図（1/80）



28号竪穴建物跡



第19図 28~30・32号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80、1/40、1/4)

### 32号竪穴建物跡（第19図、写真図版8）

調査区西半北寄り、30号竪穴建物跡の東で検出された、平面不整形を呈する遺構である。27号竪穴建物跡を切り、西半は30号竪穴建物跡に大きく切られている。東西軸約1.7m+ $\alpha$ 、南北軸約1.1m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約21cmを測る。主柱穴・壁際溝・カマド等は確認できなかった。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

### 33号竪穴建物跡（第20図、写真図版8）

調査区西半北寄り、28・29号竪穴建物跡の西で検出された、平面方形を呈すると考えられる遺構である。標高の低い西～南を大きく欠く。南北軸約3.7m+ $\alpha$ 、東西軸約1.5m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約13cmを測る。遺構の中央に深さのあるピットが見られるが、主柱穴となりえるかどうかは不明である。壁際溝は確認できなかった。カマドも構造物としては確認できなかったが、東壁内寄りに40cm×45cmの焼土が見られ、本来はカマドが存在したものと思われる。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

### 34号竪穴建物跡（第20図、写真図版8）

調査区西半中央、33号竪穴建物跡の南で検出された、平面方形を呈すると考えられる遺構である。標高の低い西～南を大きく欠くため明確ではないが、35・35-2号竪穴建物跡・1号掘立柱建物跡・19号土坑に切られると思われる。東西軸約8.8m、南北軸約2.2m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約34cmを測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝やカマド等も確認できなかった。この遺構からは須恵器壊身（第20図4）のほか、ガラス質滓と考えられる鉄滓が出土している。



写真1 ガラス質滓

### 35号竪穴建物跡（第21図、写真図版8・9）

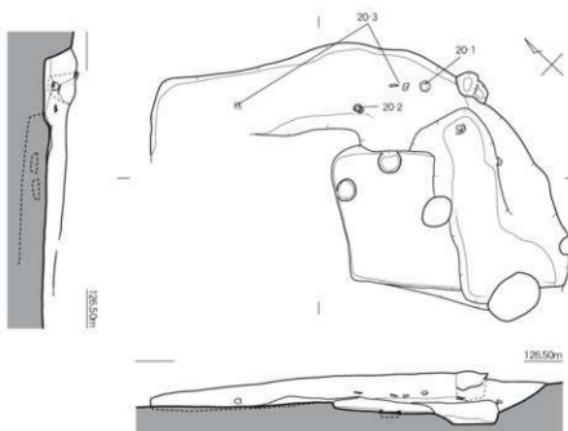
調査区西半中央、34号竪穴建物跡の西で検出された遺構で、35号は平面方形を呈する遺構である。34・35-2号竪穴建物跡を切る。東西軸約3.9m、南北軸約3.7m、床面までの深さは最大で約28cmを測る。主柱穴は4本で、深さは29～43cmを測る。壁際溝は確認されなかった。北壁東寄りに壁面より少し張り出すタイプのカマドが備えられている。両袖とも残存しており、残存長は東側約55cm、西側約47cm、袖幅約60cmである。袖石・袖石抜取痕・支脚痕等は検出できなかった。この遺構からは、須恵器壊蓋（第21図1・2）のほか、砥石・棒状石器（第35図5・12・13）が出土している。

### 35-2号竪穴建物跡（第21図、写真図版8）

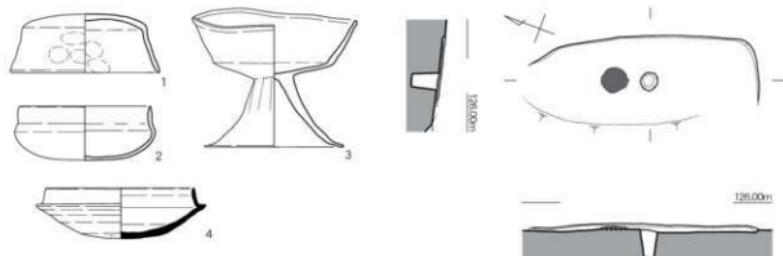
調査区西半中央、35号竪穴建物跡と重複して検出された遺構で、平面方形を呈すると考えられる。35号竪穴建物跡に大部分を切られ、西隅を36号竪穴建物跡に切られる。南北軸約4.6m、東西軸約4.0m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約15cmを測る。主柱穴・壁際溝・カマド等の施設は確認できなかった。この遺構からの遺物の出土はなかった。

### 36号竪穴建物跡（第22図、写真図版9）

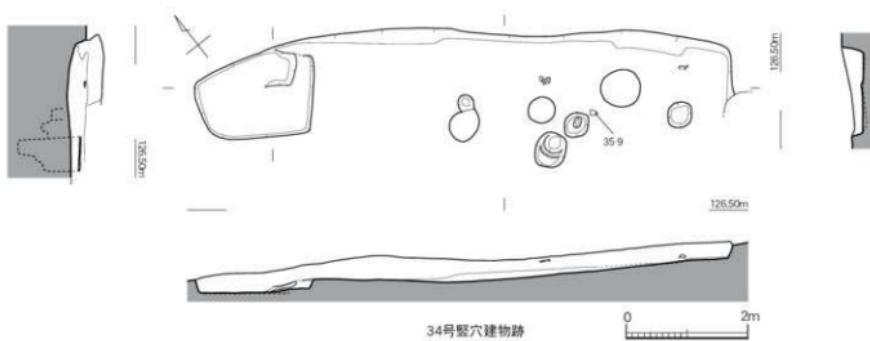
調査区西半西寄り、35号竪穴建物跡の西で検出された、平面方形を呈する遺構である。35-2号竪穴建物跡を切り、1号井戸に切られる。東西軸・南北軸とも約5.4m、床面までの深さは最大で約54cmを測る。主柱穴は本



31号竪穴建物跡

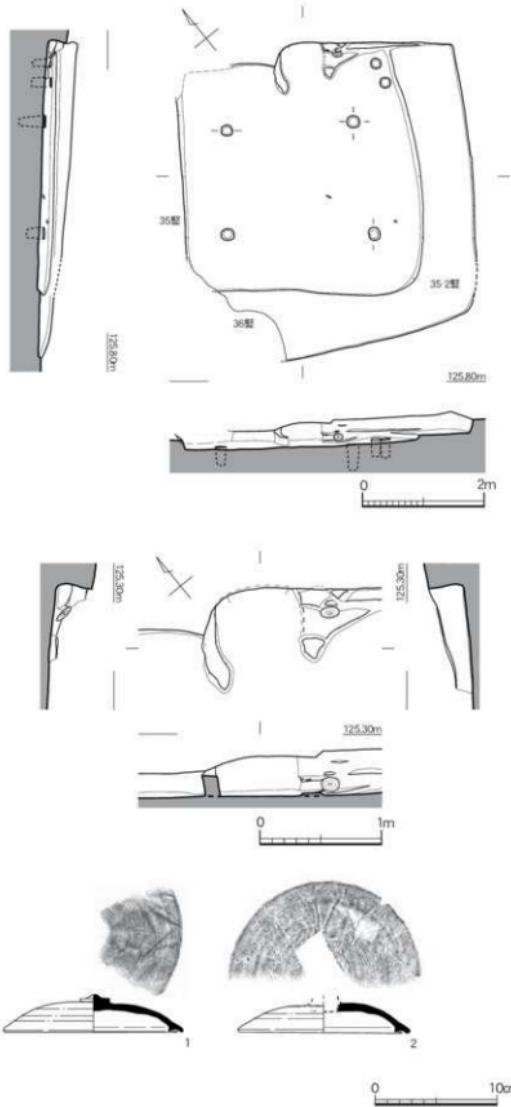


33号竪穴建物跡



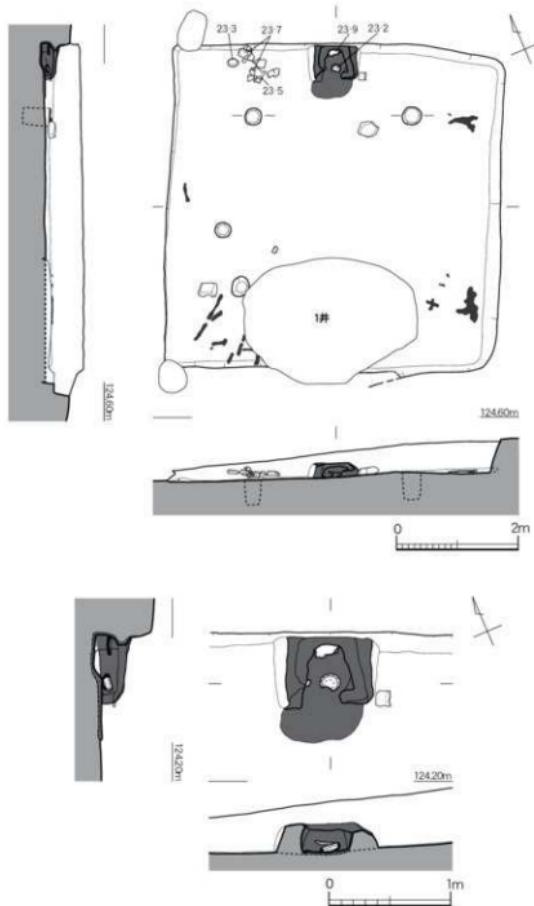
34号竪穴建物跡

第20図 31・33・34号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)



第21図 35・35-2号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80, 1/40, 1/4)

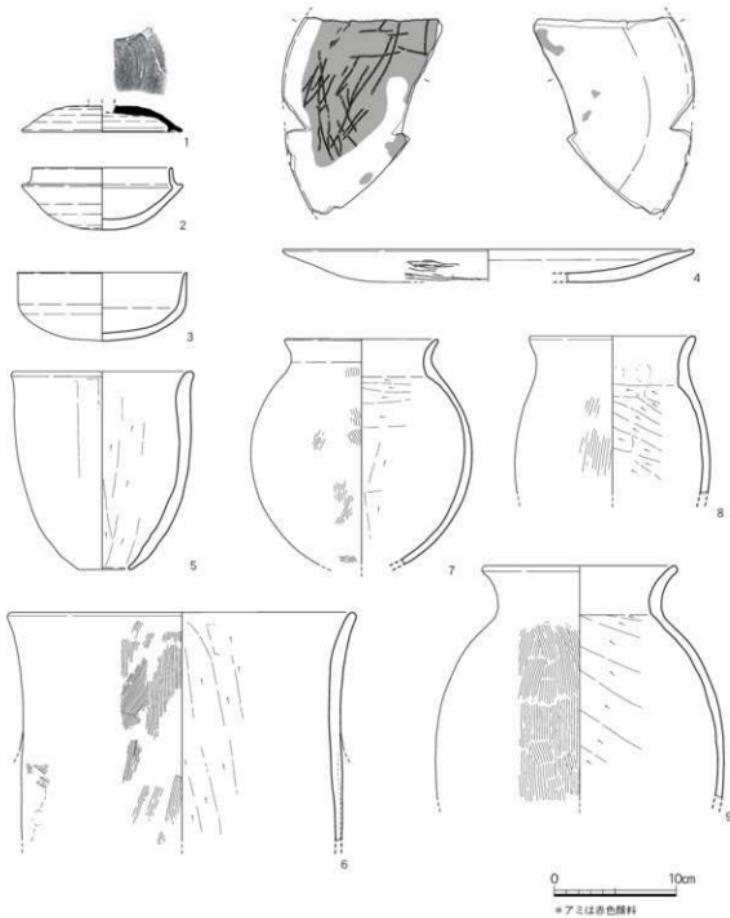
来4本と思われるが、南東隅の1本は1号井戸に切られたものと考えられる。主柱穴の深さは37~45cmを測る。壁際溝は確認できなかった。北壁中央に壁面から張り出さないタイプのカマドが備えられており、両袖とも残存している。残存長は東側約53cm、西側約54cm、袖幅は約30cmである。カマドはよく焼けており、また遺構全体に炭化木が見られることから、焼失住居と考えられる。この遺構からは、須恵器壺蓋や、土師器壺・高壺・甄・甕（第23図1~9）が出土している。そのほか、楕円形と考へられる鐵滓（第34図23）も出土している。



第22図 36号竪穴建物跡、カマド実測図 (1/80, 1/40)

37号竪穴建物跡（第24図、写真図版9）

調査区北西隅、31号竪穴建物跡の西で検出された、平面略方形を呈する遺構である。38・39号竪穴建物跡を切る。南北軸約4.1m、東西軸約3.2m、床面までの深さは最大で約20cmを測る。遺構内に複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝は確認できなかった。北壁から西にのびる溝状の遺構は用途不明である。北壁西寄りに壁面より張り出すタイプのカマドが備えられている。両袖とも残存しないが、袖石抜取痕は両袖とも見られ、その幅は約35cmである。東壁付近にも焼土が見られるが、床面から浮いており、この遺構とは別のものである。この遺構からは、土師鍋鉢（第24図1）が出土している。



第23図 36号竪穴建物跡出土遺物実測図（1/4）

### 38号竪穴建物跡（第25図、写真図版9）

調査区北西隅、37号竪穴建物跡の東で検出された遺構であるが、西を37号竪穴建物跡に、また南を8号溝に大きく切られるため、平面形は不明である。標高の低い南西側を欠く。南北軸約4.6m+ $\alpha$ 、東西軸約3.9m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約17cmを測る。複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝も確認できなかった。カマドの施設は検出されなかったが、西側で50cm×46cmの焼土が見られることから、本来はカマドが存在したものと思われる。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

### 39号竪穴建物跡（第25図、写真図版9）

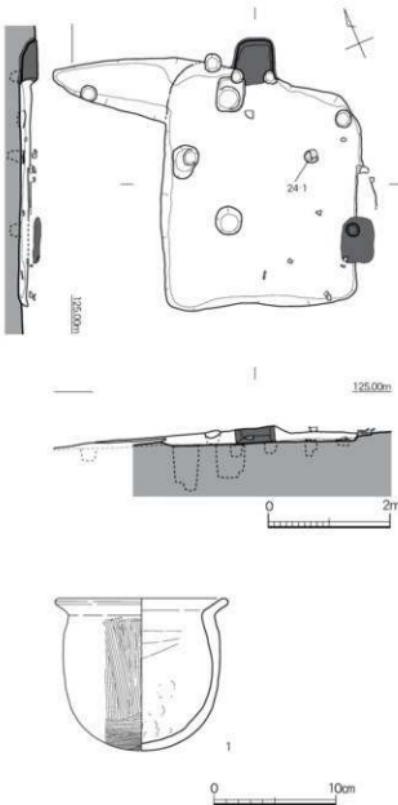
調査区北西隅、37号竪穴建物跡の西で検出された遺構であるが、平面形は明確でない。東を37号竪穴建物跡に切られ、西側は調査区外へと続く。標高の低い南および北を欠く。南北軸約7.5m+ $\alpha$ 、東西軸約3.9m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約15cmを測る。複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。壁際溝も確認できなかった。カマドの施設は検出されなかったが、北側で150cm×90cmの焼土が見られることから、本来はカマドが存在したものと思われる。この遺構からは須恵器壺蓋（第25図1）が出土している。

### 40号竪穴建物跡（第26図）

調査区北東隅、31号竪穴建物跡の南で検出された。平面不整形を呈する遺構である。西側の大半を後世の烟の区画溝により失っている。南北軸約3.5m+ $\alpha$ 、東西軸約1.6m+ $\alpha$ 、床面までの深さは最大で約60cmを測る。主柱穴・壁際溝・カマド等は不明である。この遺構からの遺物の出土はなかった。

### 41号竪穴建物跡（第26図）

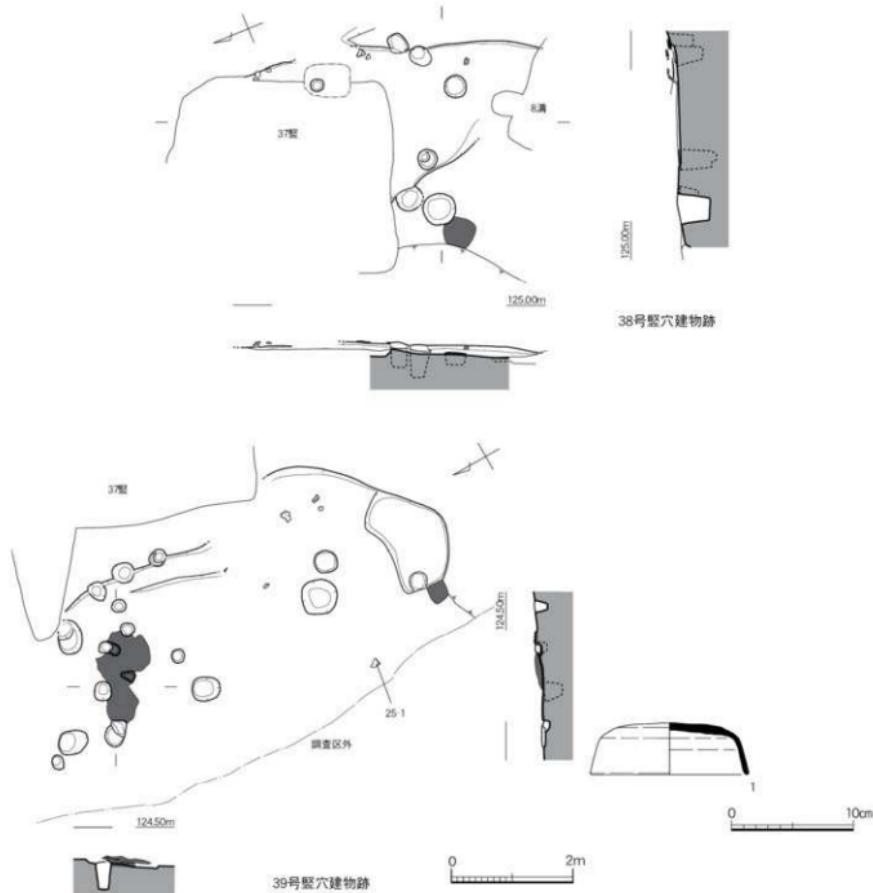
調査区西端中央、26号竪穴建物跡の北西で検出された、平面方形を呈すると思われる遺構である。2軒切り合っているように見える。西～南のほとんどは調査区外へ続く。南北軸約5.5m、東西軸約2.0m+ $\alpha$ 、床面までの深さは約70cmを測る。主柱穴やカマドは不明である。北東隅の一部で深さ4～6cmの壁際溝が検出されている。この遺構からの遺物の出土はなかった。



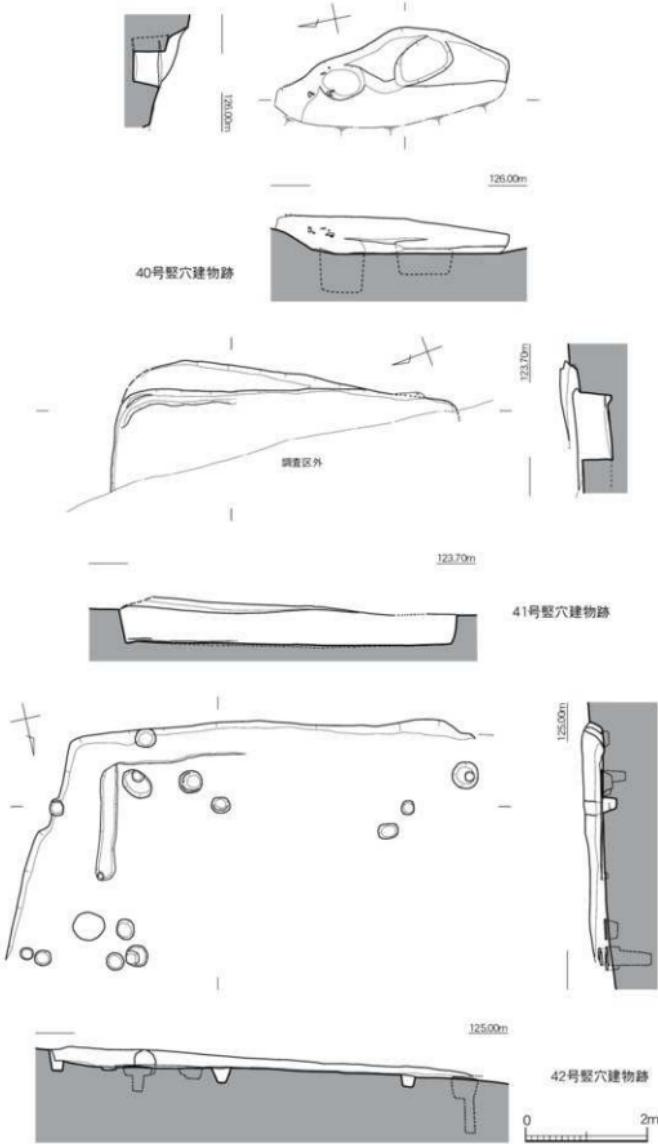
第24図 37号竪穴建物跡、出土遺物実測図  
(1/80、1/4)

42号竪穴建物跡（第26図）

調査区西端南寄り、36号竪穴建物跡の南で検出された、平面不整方形を呈すると思われる遺構である。4号掘立柱建物跡に切られ、標高の低い北～西を大きく欠く。東西軸約6.7m + α、南北軸約3.8m + α、床面までの深さは最大で約30cmを測る。複数のピットが見られるが、主柱穴は不明である。また壁際溝やカマドも不明である。この遺構からの遺物の出土はなかった。



第25図 38・39号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80, 1/4)



第26図 40～42号竪穴建物跡実測図 (1/80)

## 2) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は全部で4棟確認された。内訳は、2間×2間の総柱建物3棟、3間×3間の側柱建物1棟である。側柱の2号を除き、他の3棟はいずれも調査区西半にあるが、近接するわけでもなく、それぞれが単独で存在しており、規模や建物の主軸方向にも特段統一性は見られない。以下それぞれの建物ごとに説明を加える。

### 1号掘立柱建物跡（第27図、写真図版10）

調査区西半中央で検出された建物跡で、34号竪穴建物跡を切る。主軸方向をN-23°-Eにとり、柱間は2間×2間の総柱建物である。規模は柱穴間の心心距離で約2.7m×3.1m、検出面での柱穴の掘り方直径は45~65cm、柱穴の深さは30~55cmを測る。柱痕跡は検出されなかった。第27図P 1~4の柱穴より土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

### 2号掘立柱建物跡（第27図）

調査区中央部で検出された建物跡で、10・11・12号竪穴建物跡を切る。主軸方向をN-40°-Eにとり、柱間は3間×3間の側柱建物である。規模は柱穴間の心心距離で約5.3m×5.5m、検出面での柱穴の掘り方直径は20~70cm、柱穴の深さは15~85cmを測る。西側の柱列は径が小さいものの深くしっかりしている。柱痕跡は検出されなかった。この遺構からは遺物の出土はなかった。

### 3号掘立柱建物跡（第28図、写真図版10）

調査区西端付近で検出された建物跡で、他の遺構と切り合わず単独で存在している。主軸方向をN-55°-Wにとり、柱間は2間×2間の総柱建物である。規模は柱穴間の心心距離で約2.0m×3.0mと小さいが、検出面での柱穴の掘り方直径は25~50cm、柱穴の深さは15~55cmを測る。柱痕跡は検出されなかった。この遺構からは遺物の出土はなかった。

### 4号掘立柱建物跡（第28図、写真図版10）

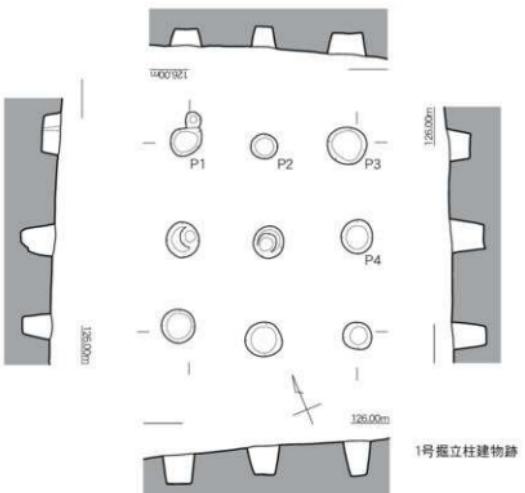
調査区西南寄りで検出された建物跡で、42号竪穴建物跡を切る。主軸方向をN-39°-Eにとり、柱間は2間×2間の総柱建物である。規模は柱穴間の心心距離で約2.8m×3.1m、検出面での柱穴の掘り方直径は40~75cm、柱穴の深さは15~80cmを測る。柱痕跡は検出されなかった。この遺構からは遺物の出土はなかった。

## 3) 井戸

井戸は1基確認された。

### 1号井戸（第29図、写真図版9）

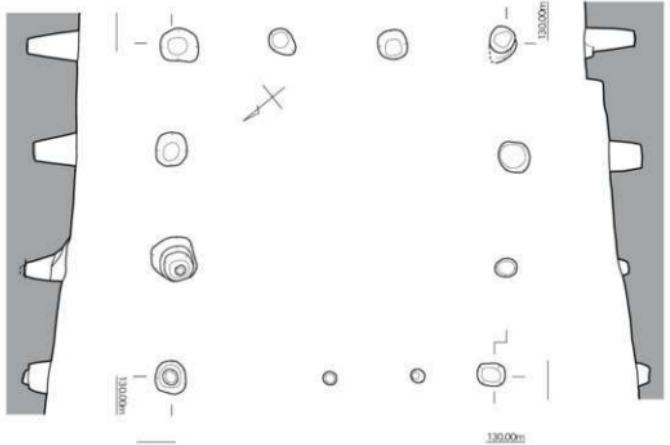
調査区西半西寄り、36号竪穴建物跡に重複して検出された素掘りの井戸である。検出面での平面プランは約2.8m×約2.1mの長楕円形を呈し、深さは155cmまでは確認できたが、それ以上の掘削は危険であるため、掘り下げを留めた。断面はほぼ筒状を呈するが、標高の低い西側に向かって若干オーバーハング気味である。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。



1号掘立柱建物跡



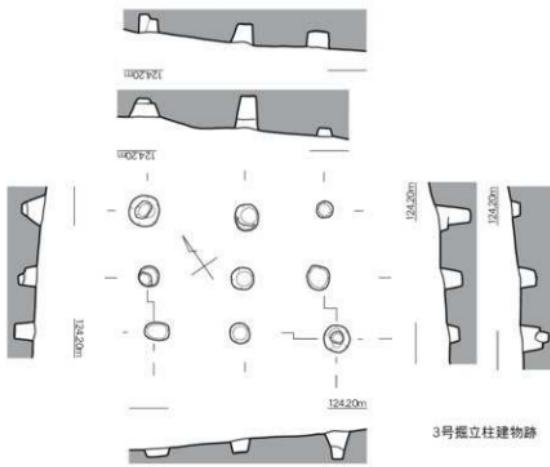
2号掘立柱建物跡



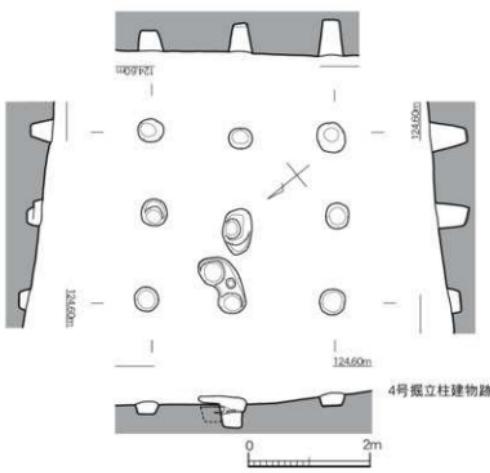
2号掘立柱建物跡



第27図 1・2号掘立柱建物跡実測図 (1/80)



3号掘立柱建物跡



4号掘立柱建物跡

第28図 3・4号掘立柱建物跡実測図 (1/80)

#### 4) 土坑

土坑は全部で21基検出された。標高の高低に関わらず調査区の全体にまんべんなく見られるが、竪穴建物跡の多い箇所には土坑も多く見られ、他の遺構と重複するものが多い。以下説明を加える。

##### 1号土坑（第29図、写真図版10）

調査区東半、2号竪穴建物跡の西で検出された遺構で、2号竪穴建物跡を切る。平面略円形を呈し、長軸約2.7m、短軸約2.4m、底面までの深さは約120cmを測る（危険であるため一部未掘）。この遺構からは土製杓子、弥生土器器台・二重口縁壺（第33図1～3）のほか、打製石斧（第36図4）が出土している。

##### 2号土坑（第29図）

調査区東半北寄り、2号竪穴建物の北で検出された遺構で、3号土坑と隣り合う。平面長楕円形を呈し、長軸約3.1m、短軸約1.2m+ $\alpha$ 、底面までの深さは約50cmを測る。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。他に二次加工剥片（第35図21）が出土している。

##### 3号土坑（第29図）

調査区東半北寄り、2号竪穴建物跡の北で検出された遺構で、2号土坑と隣り合う。平面不整形を呈し、長軸約2.7m+ $\alpha$ 、短軸約1.3m+ $\alpha$ 、底面までの深さは約40cmを測る。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

##### 4号土坑（第29図、写真図版10）

調査区東半北寄り、3号竪穴建物跡に重複して検出された遺構である。平面不整形を呈し、長軸約7.0m、短軸約2.7m、床面までの深さは約180cm+ $\alpha$ を測る（危険であるため西側は未掘）。この遺構からは須恵器高杯（第33図4）が出土している。

##### 5号土坑（第29図、写真図版10）

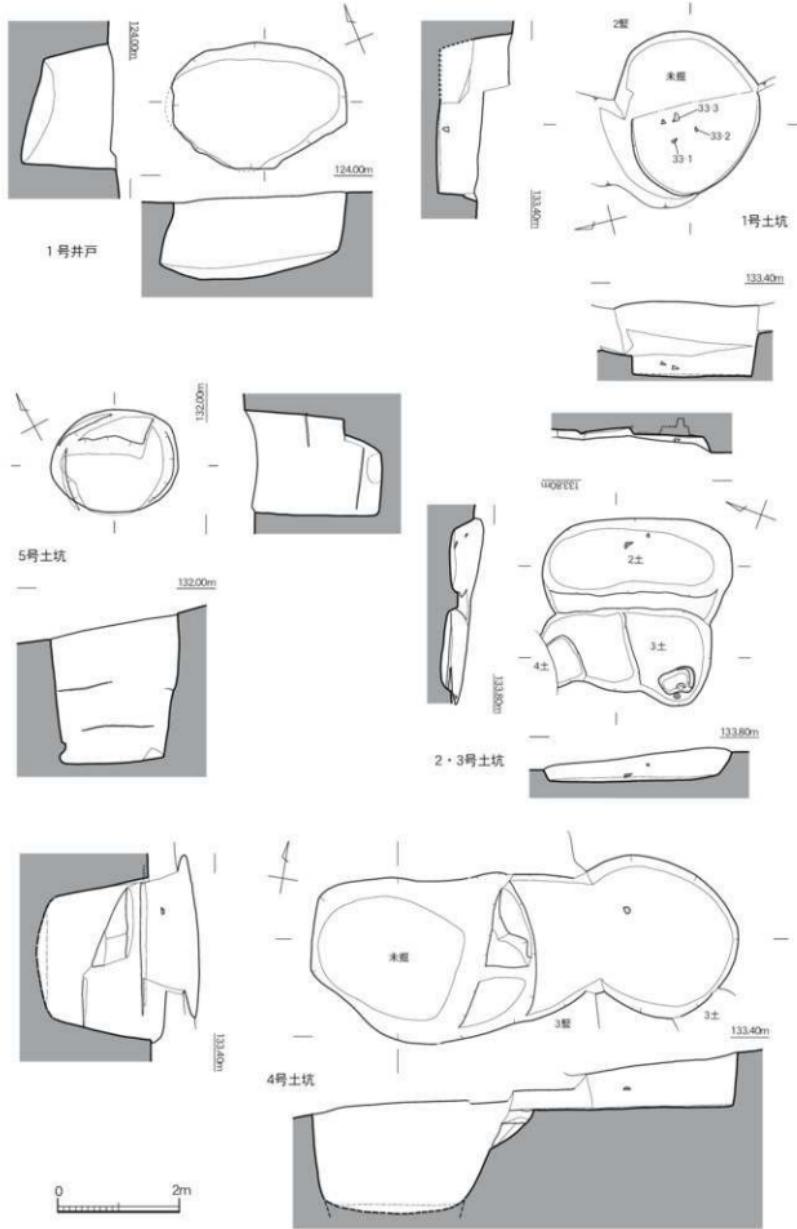
調査区東半中央、6号竪穴建物跡の北で検出された遺構で、6号竪穴建物跡を切る。平面略円形を呈し、長軸約2.1m、短軸約1.7m、底面までの深さは約220cmを測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

##### 6号土坑（第30図、写真図版10）

調査区東半北寄り、7・8号竪穴建物跡の北で検出された遺構で、7・8号竪穴建物跡を切る。平面不整形を呈し、長軸約7.8m、短軸約3.6m、底面までの深さは約120cmを測る（危険であるため西側は未掘）。この遺構からは、土師器環（第33図5）のほか、鉄鎌（第34図1）、滑石製石鍋（第35図8）、打製石斧（第36図6）が出土している。

##### 7号土坑（第30図）

調査区東半南端、9・10号竪穴建物跡の南で検出された遺構で、他の遺構と離れて存在する。平面長方形を呈し、長軸約3.2m、短軸約1.2m、底面までの深さは約120cmを測る。底面には深さ15cm程度の小ビットが2つ見られる。形状から、繩文時代の落し穴の可能性が考えられる。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。



第29図 1号井戸、1~5号土坑実測図 (1/80)

#### 8号土坑（第30図、写真図版11）

調査区中央北寄り、18号竪穴建物跡の南で検出された遺構で、18号竪穴建物跡を切る。平面不整形を呈し、長軸約2.2m、短軸約1.6m、底面までの深さは約65cmを測る。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

#### 9号土坑（第30図）

調査区中央北寄り、20号竪穴建物跡の北で検出された遺構で、19・21号竪穴建物跡を切る。平面略円形を呈し、長軸約1.6m、短軸約1.5m、深さは130cm以上である（危険なためそれ以上は未掘）。下部はプラスコ状に広がると思われる。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

#### 10号土坑（第30図）

調査区中央部、20号竪穴建物跡に重複して検出された遺構で、20号竪穴建物跡を切る。平面略円形を呈し、長軸約1.4m、短軸約1.3m、底面までの深さは約210cmを測る。この遺構からは土師器片が1点出土しているが、図示不能である。

#### 11号土坑（第31図、写真図版11）

調査区中央部、20号竪穴建物跡に重複して検出された遺構で、20号竪穴建物跡を切る。平面不整形を呈し、長軸約2.7m、短軸約2.3m、底面までの深さは約280cmを測る。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。他に鉄鏃（第34図9）が出土している。

#### 12号土坑（第31図）

調査区中央南寄り、20号竪穴建物跡の南で検出された遺構である。平面略円形が2つ連なったような形状を呈し、長軸約3.6m、短軸約2.0m、底面までの深さは約80cmを測る。2つの土坑が切り合ったものか。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。他に使用痕剥片（第35図17）が出土している。

#### 13号土坑（第31図）

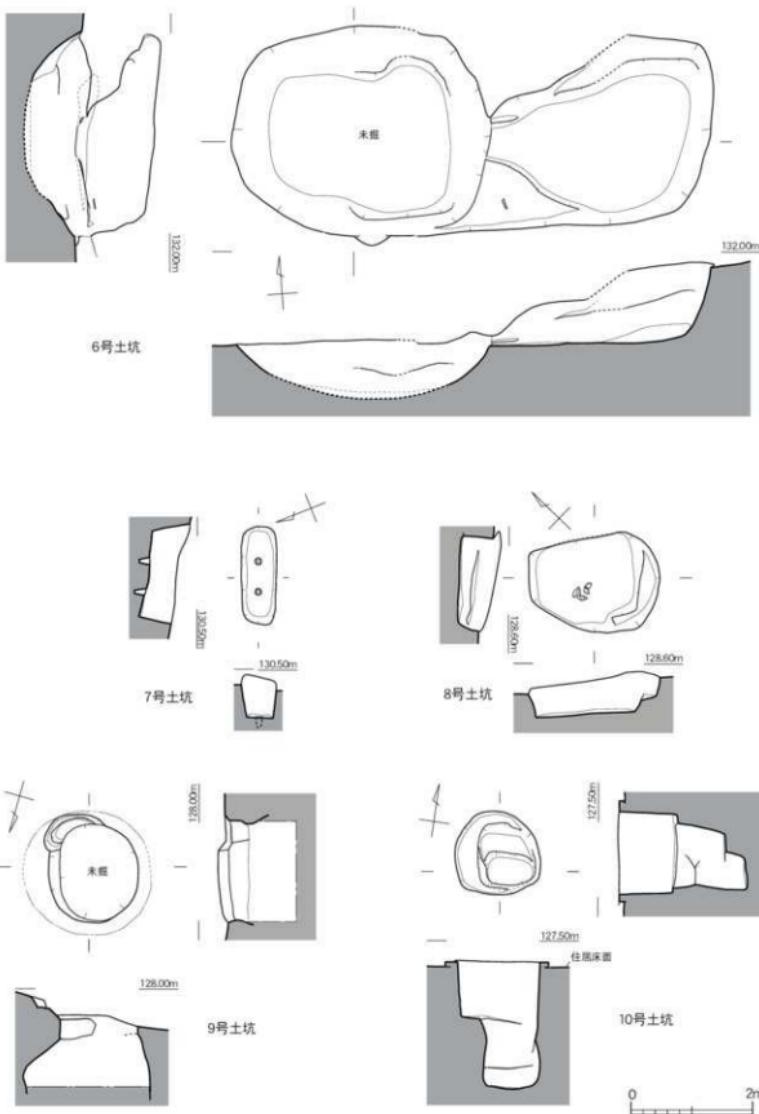
調査区中央北寄り、19号竪穴建物跡の西で検出された遺構で、19号竪穴建物跡を切る。平面略円形を呈し、長軸約1.2m、短軸約1.1m、底面までの深さは約260cmを測る。この遺構からは土師器片が1点出土しているが、図示不能である。

#### 14号土坑（第31図、写真図版11）

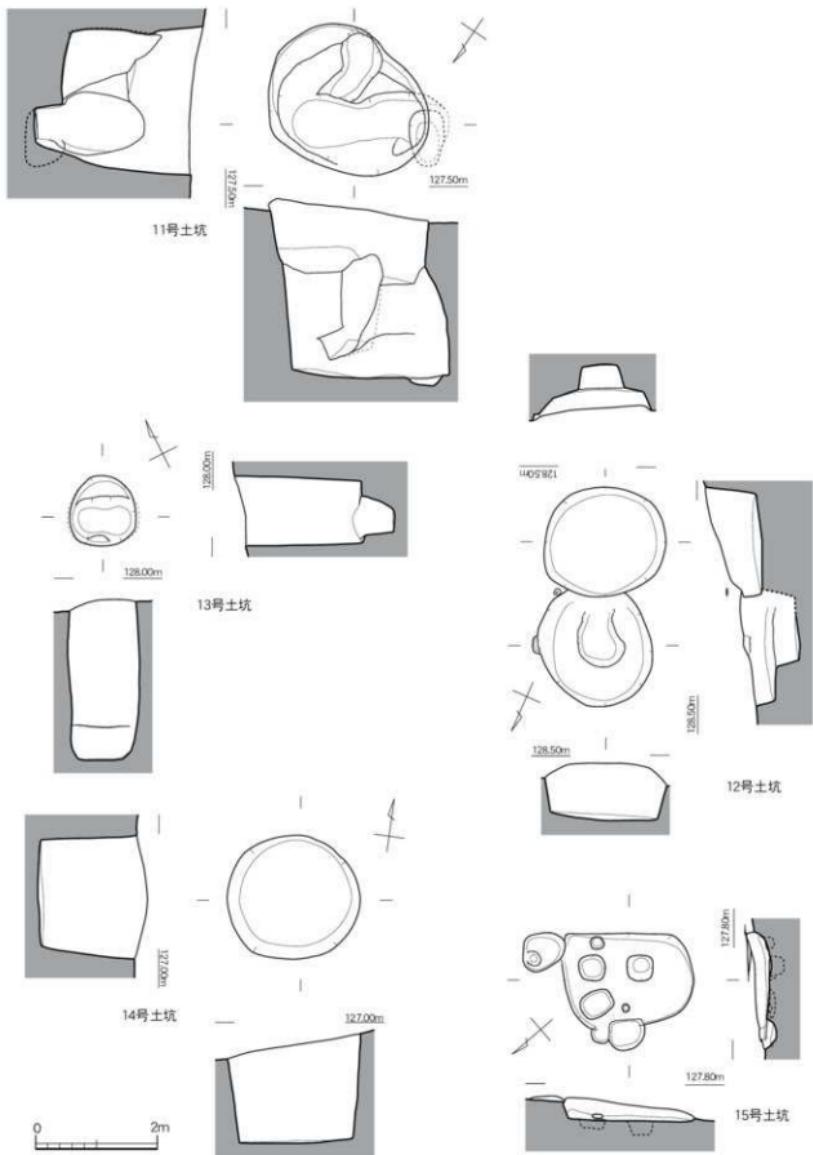
調査区中央北寄り、19号竪穴建物跡の西で検出された遺構で、19号竪穴建物跡を切る。平面略円形を呈し、長軸約2.2m、短軸約2.0m、底面までの深さは約180cmを測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

#### 15号土坑（第31図、写真図版11）

調査区中央北寄り、19号竪穴建物跡の北西で検出された遺構である。平面不整形を呈し、長軸約2.8m、短軸約1.9m、底面までの深さは約35cmを測る。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。



第30図 6～10号土坑実測図 (1/80)



第31図 11～15号土坑実測図 (1/80)

#### 16号土坑（第32図）

調査区中央北寄り、24号竪穴建物跡の東で検出された遺構である。平面不整形を呈し、長軸約1.7m、短軸約0.6m、底面までの深さは約90cmを測る。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

#### 17号土坑（第32図、写真図版11）

調査区西半北端、24号竪穴建物跡の北で検出された遺構である。平面長円形を呈し、長軸約2.8m、短軸約1.4m、底面までの深さは約40cmを測る。この遺構からは須恵器环身（第33図6）が出土している。

#### 18号土坑（第32図）

調査区西半北寄り、27号竪穴建物跡の東で検出された遺構である。平面長円形を呈し、長軸約1.6m、短軸約1.0m、底面までの深さは約30cmを測る。遺構内にあるピットの深さは約30cmである。この遺構からは須恵器环身（第33図7・8）が出土している。

#### 19号土坑（第32図、写真図版11）

調査区西半中央、23号竪穴建物跡の西で検出された遺構で、23・34号竪穴建物跡を切る。平面長円形を呈し、長軸約6.5m、短軸約2.5m、底面までの深さは約100cmを測る。この遺構からは須恵器环身や土師器环身（第33図9・10）のほか、打製石斧（第36図13）が出土している。

#### 20号土坑（第32図）

調査区西半中央、22号竪穴建物跡の北西で検出された遺構で、22号竪穴建物跡を切る。平面長円形を呈し、長軸約1.7m、短軸約1.2m、底面までの深さは約120cmを測る。下部は南西方方向に広がる。この遺構からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

#### 21号土坑（第32図）

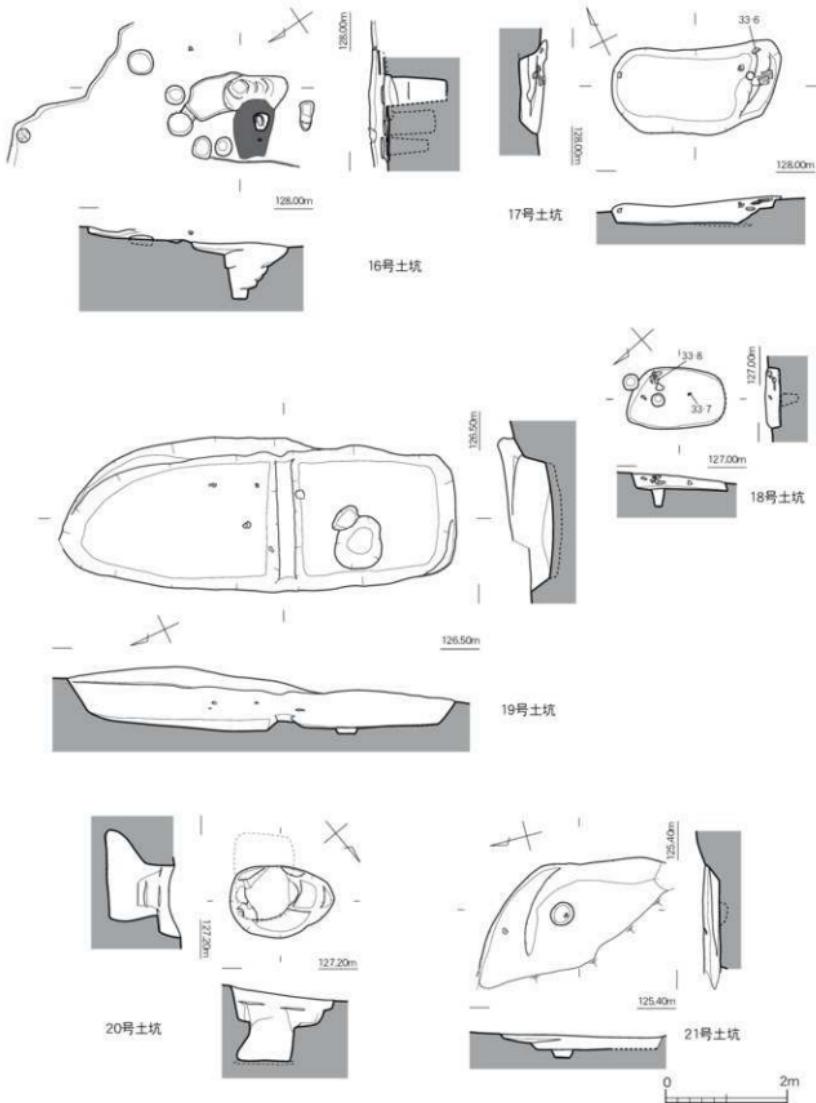
調査区西半西寄り、40号竪穴建物跡の南で検出された遺構で、8号溝に切れられ、西側を後世の畑の区画溝によつて欠く。平面不整形を呈し、長軸約3.4m+ $\alpha$ 、短軸約1.8m+ $\alpha$ 、底面までの深さは約30cmを測る。中央のピットの深さは約10cmである。この遺構からは土師器甕（第33図11）が出土している。

#### 5) 溝（第3図）

調査区内では、従前の畑の区画溝以外にも溝状の遺構が複数検出されているが、遺構としては下記の8条の溝が認められた。ただし、遺構全体図には図示したもの、個別遺構図を作成していなかったため、溝の深さや埋土の状況などは不明であることをお詫びする。

##### 1号溝

調査区中央北寄り、12～15号竪穴建物跡と16～19号竪穴建物跡の間で検出された溝で、概ね南北方向、すなわち谷の傾斜に直交する方向に直線的に伸びる。北側は調査区外へ続き、調査区内で検出された規模は、長さ約8.5m、幅約40cmを測る。この溝からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。



第32図 16~21号土坑実測図 (1/80)

## 2号溝

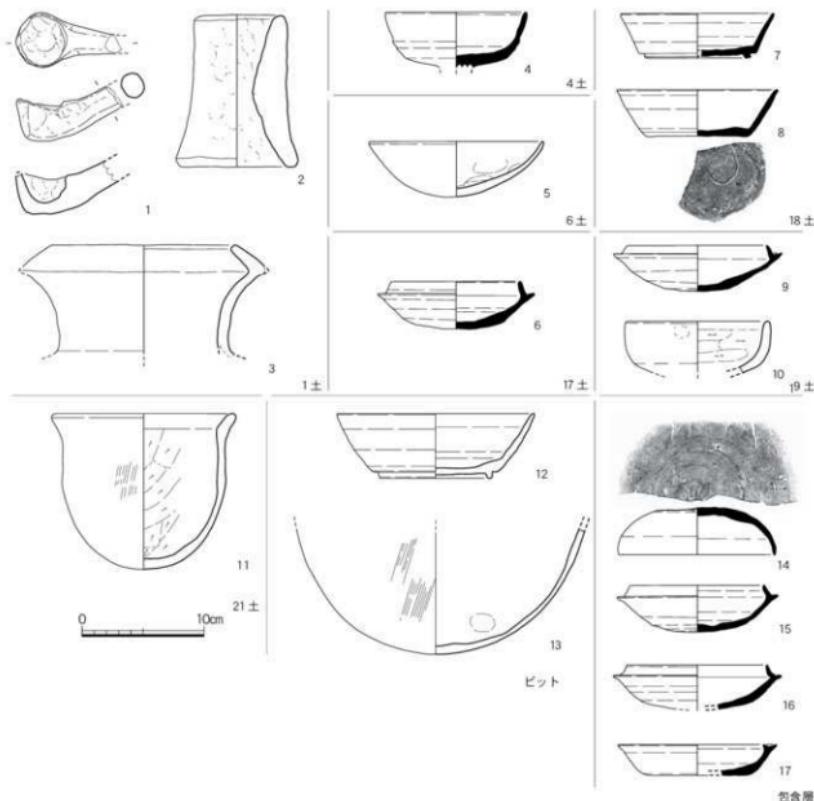
調査区中央、12～15号竪穴建物跡や9～11号竪穴建物跡と、16～19号竪穴建物跡や20～22号竪穴建物跡の間で検出された溝で、概ね南北方向、谷の傾斜に直交する方向にほぼ直線的に伸びる。長さ約13.5m、幅約50cmを測る。この溝からは土師器片や須恵器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

## 3号溝

調査区中央南寄り、12号土坑の南で検出された溝で、短いながら、概ね南北方向、谷の傾斜に直交する方向にほぼ直線的に伸びる。長さ約2.8m、幅約40cmを測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

## 4号溝

調査区西半北寄り、24・26号竪穴建物跡に重複して検出された溝で、南東～北西にはば直線的に伸びる。長さ約3.1m+α、幅約50cmを測る。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。



第33図 土坑・その他出土遺物実測図 (1/4)

### 5号溝

調査区西半北寄り、26号竪穴建物跡に一部重複して検出された溝で、北東—南西にほぼ直線的に伸びる。長さ約2.0m +  $\alpha$ 、幅約50cmを測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

### 6号溝

調査区西半北寄り、33号竪穴建物跡の北東で検出された溝で、途切れながらも33号竪穴建物跡を囲むようにゆるやかに直角に曲がる。長さ約7.0m、幅約20cmを測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

### 7号溝

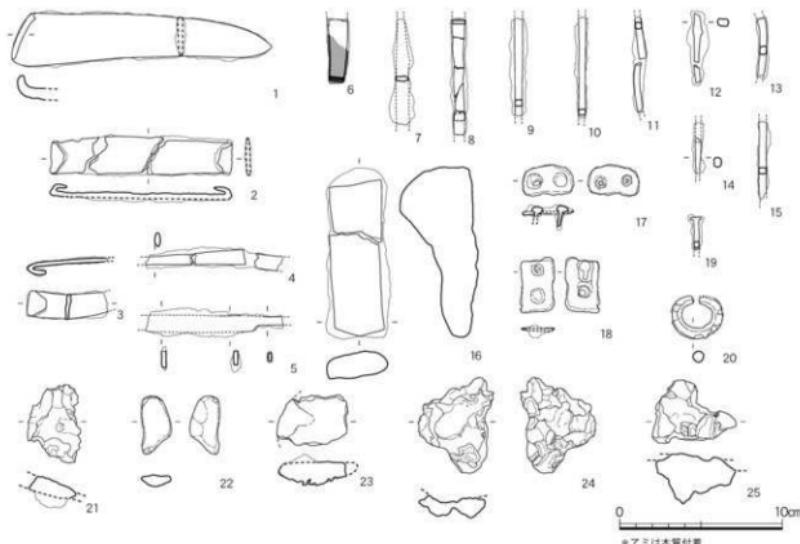
調査区中央南寄り、20号竪穴建物跡の南で検出された溝で、東端は20号竪穴建物跡に切られる。東西にはほぼ直線的に伸びる。長さ約7.0m +  $\alpha$ 、幅約50cmを測る。この遺構からは遺物の出土はなかった。

### 8号溝

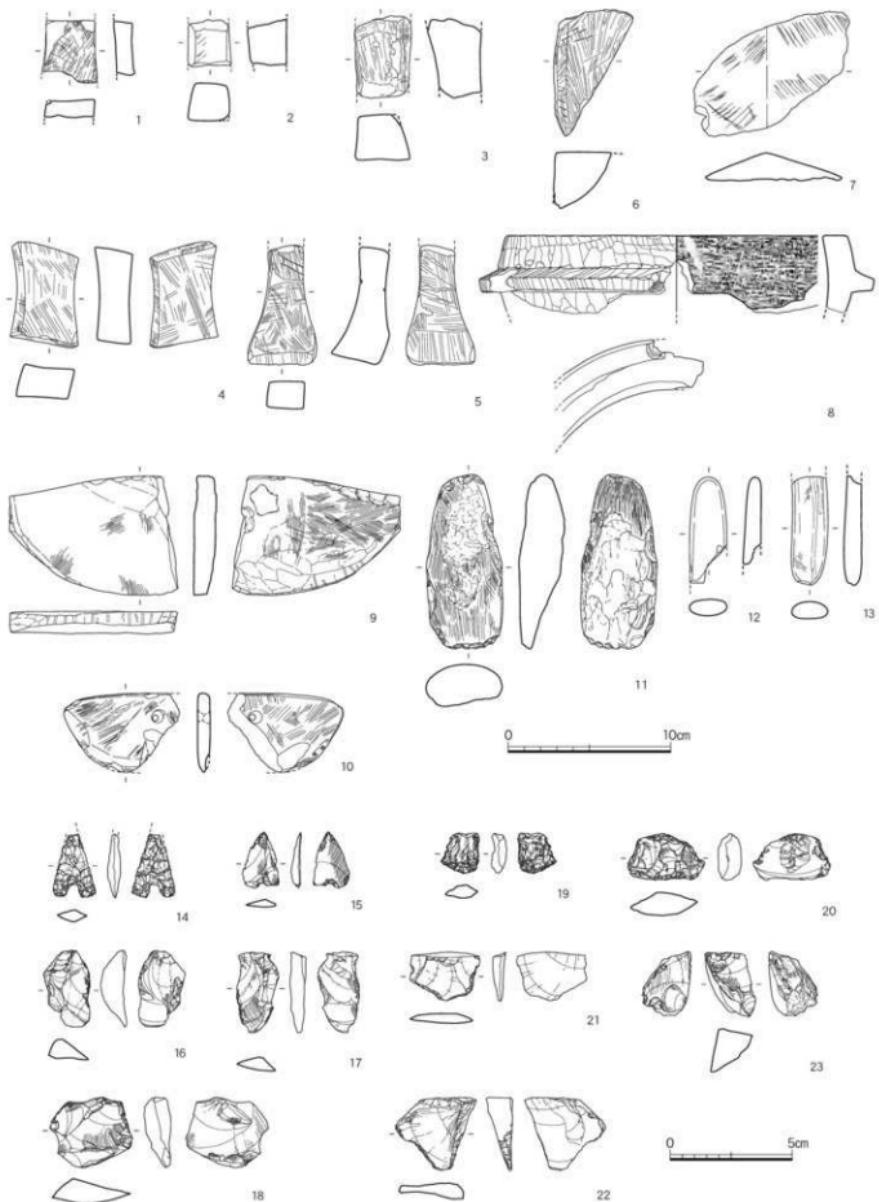
調査区西端近く、36号竪穴建物跡の北で検出された溝で、21号土坑・38号竪穴建物跡を切る。南東—北西にほぼ直線的に伸びる。長さ約9.0m、幅約80cm、東端の土坑状の部分で幅約1.7mを測る。この遺構からは土師器片が出土しているが、図示できるものはなかった。

### 6) その他の遺物（第33図12～17、第34～36図）

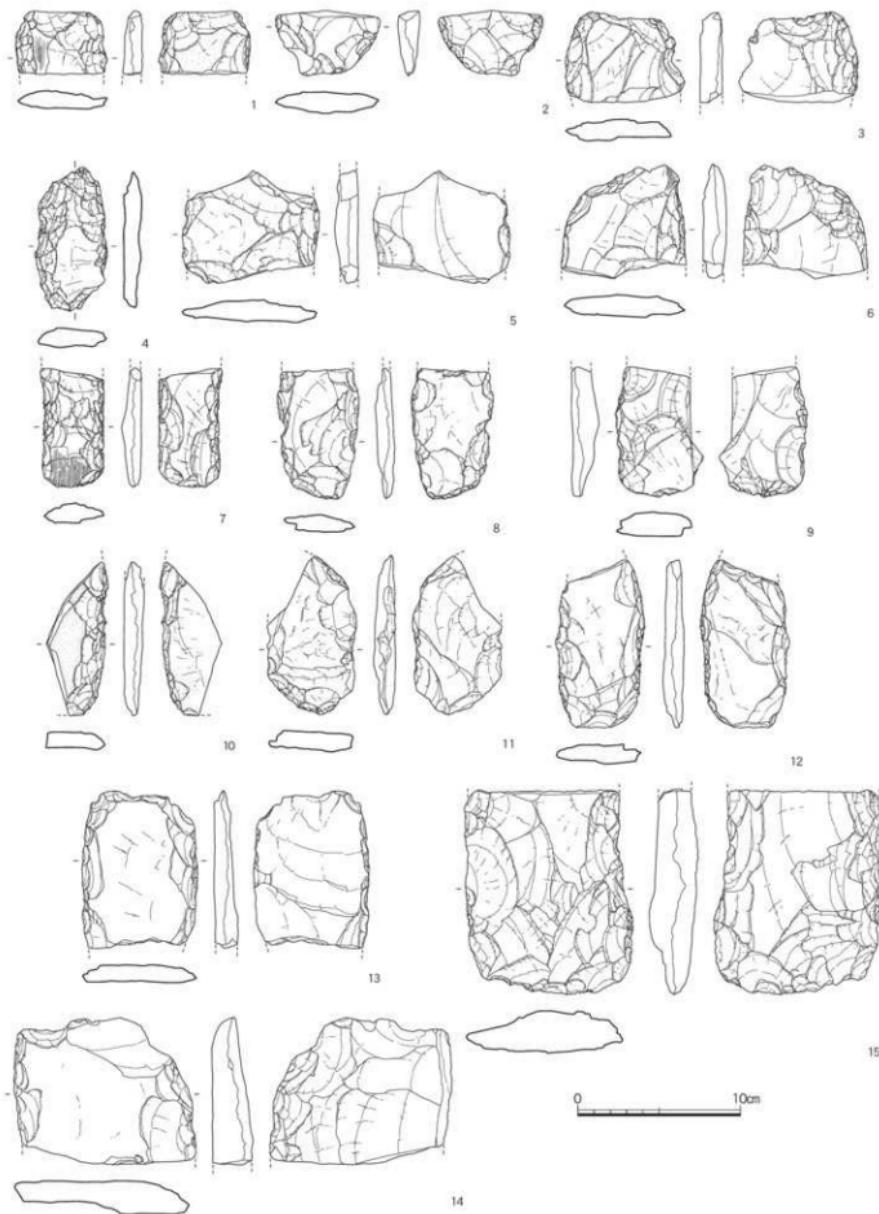
前節までに記述してきた遺構に伴う土器や金属製品・鉄生産関連遺物、石製品のほかにも、ビットや包含層などから各種遺物が出土している。各遺物の詳細については第2～5表にまとめている。



第34図 金属製品・鉄生産関連遺物実測図（1/3）



第35図 石器・石製品実測図① (1/2, 1/3)



第36図 石器・石製品実測図② (1/3)

### (3) 小結

長追遺跡B地点の調査結果について、簡単にまとめる。

豊穴建物跡は42軒が確認された。これらは出土遺物と造構の状況などから、概ね奈良時代（2、11、22、23、26、28、37号）および古墳時代後期（左記以外）の2時期に分けられよう。隣接するA地点では同2時期のほか平安時代の豊穴建物跡が検出されていることに比べると、B地点では明確に平安時代まで下がる造構は確認されていない。また各時代の造構の構成割合は、A地点では古墳時代後期約72%：奈良時代約25%：平安時代約3%に対し、B地点では古墳時代後期約83%：奈良時代約17%であり、B地点ではA地点に比べて古墳時代後期の造構の割合が少し高い。B地点はA地点より傾斜が急であり、B地点の各造構の残存度はA地点に比べるとかなり悪く、検出状況からB地点の豊穴建物の多くは面積の半分以上が盛土上に構築されていたと考えられ、非常に不安定な地盤の上で暮らしていたことになる。これまでに調査された周辺の遺跡<sup>(註1)</sup>の状況を考慮しながら長追遺跡A・B地点に注目して概観すると、古墳時代後期、求来里川を中心とした谷とそこから派生する小さな谷にいたるまで一斉に集落が形成されたものの、B地点ではその立地の不利さから集落は長続きせず、次第にA地点や周辺の遺跡に集約されたものと考えられる。

豊穴建物跡以外の造構について時期が明らかなものは、7号土坑は縄文時代の落とし穴状造構と考えられ、同じ有田塚ヶ原遺跡群内の有田塚ヶ原遺跡<sup>(註2)</sup>との関連が想定される。1号土坑は弥生時代後期と考えられ、北に隣接する紙園原遺跡<sup>(註3)</sup>との関連が想定される。4・6・17・19号土坑は古墳時代後期、18号土坑・1号掘立柱建物跡は奈良時代と考えられる。また2号掘立柱建物跡も11号豊穴建物跡を切ることから奈良時代と思われる。

なお、本稿では豊穴建物跡として報告しているが、傾斜地を段状に削り4~5本の柱を1列に並べた特異な造構（4・5号豊穴建物跡）については、同じ有田塚ヶ原遺跡群内の石ヶ迫遺跡B地区3号豊穴住居<sup>(註4)</sup>に同様の造構が見られる。いずれも調査区内での標高の高い場所にあり、通常の住居とは別の役割をもった造構の可能性がある。ほかに斜面に立地した古墳時代後期の集落遺跡としては、同じ有田地区にある西有田赤ハゲ遺跡<sup>(註5)</sup>例があるが、類例の増加を待ちたい。

また特筆すべき点として、A地点と同様に、B地点でも古墳時代後期の20・36号と奈良時代の2号豊穴建物跡から鉄滓が出土していることも注目される。これらの造構配置を見ると、2号は谷の最奥部に位置し、同時代と考えられる豊穴建物からは離れた場所に営まれている。また20・36号はいずれも谷の中央部という、この急斜面の小谷では比較的安定した場所に選地しており、特殊な構造をもつ4・5号豊穴建物跡を除けば造構の規模も大きいことから、この時期のB地点の中心的存在とも考えられる。

- (註1) 村上久和他編『尾瀬遺跡（第2次調査区・第5次調査区）』大分県文化財調査報告書第112輯 大分県教育委員会 2000  
若林竜太編『平島遺跡D地点 塔ノ本古墳 紙園原遺跡2次 長追遺跡C地点 長追遺跡D地点 尾瀬遺跡6次』日田市埋蔵文化財調査報告書第28集 日田市教育委員会 2001  
行時志郎編『尾瀬遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第30集 日田市教育委員会 2001  
行時桂子編『長追遺跡A地点』日田市埋蔵文化財調査報告書第109集 日田市教育委員会 2013
- (註2) 行時桂子編『ケビリ遺跡 有田塚ヶ原遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第58集 日田市教育委員会 2005
- (註3) 行時桂子編『紙園原遺跡II（弥生・古墳時代遺構編）』日田市埋蔵文化財調査報告書第81集 日田市教育委員会 2007  
行時桂子編『紙園原遺跡II（弥生・古墳時代遺物編）』日田市埋蔵文化財調査報告書第87集 日田市教育委員会 2008
- (註4) 行時桂子編『石ヶ迫遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第49集 日田市教育委員会 2004
- (註5) 行時志郎編『西有田赤ハゲ遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第7集 日田市教育委員会 1992

第2表 土器觀察表①

品番	通称名	種類	器種	底面		側面		調査		色調	備考	
				外層	内層	外層	内層	底上	底成			
4-1	192-1	遺物器	平底	-	-	10.8	(7.7)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	A B C E	青	にひい黄褐色 平底の器部のみ
4-2	2號-4	土器器	平底土器	12.3	(8.8)	田松サニ、ナダ	田松オサニ、ナダ	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B C E	青	にひい黄褐色 にひい黄褐色
6-1	3號-4	遺物器	平底	10.8	3.5	カクジ、船底ナダ	田松ナダ	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B C E	青	黄褐色
6-2	4號-2	遺物器	平底	(14.0)	-	3.8	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	A B C E	青	黄褐色
6-3	4號-7	遺物器	平底	(11.0)	-	3.4	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ	田松ナダ	B E	青	黄褐色
6-4	4號-3	遺物器	杯	(11.2)	-	3.8	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B E	青	黄褐色
6-5	4號-6	遺物器	杯	(11.0)	4.1	田松ナダ	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	E	青	白白色 特オーバル形色
6-6	4號-12	遺物器	杯	(10.6)	-	3.3	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ	田松ナダ	E	青	黄褐色 内面にへり記号あり
6-7	4號-6・8	遺物器	罐	(11.6)	(8.6)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	E F	青	黄褐色 罐部に墨跡へり記号あり
6-8	4號-10	土器器	瓶	(20.0)	-	23.7	田松ナダ(底面ハラス)	セヌリ、ヨコナダ	田松ナダ、ナダ	A B C E	青	黄褐色 把手付付箋、外輪に墨跡あり
6-9	4號-1	土器器	瓶	(25.0)	-	19.3	ハラスメ	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	A B C D E	青	黄褐色 底部のため倒れ不規則、器底に赤記
7-1	5號-1	土器器	杯	(19.0)	(3.7)	ナダ?	ナダ?	ナダ?	ナダ?	A B C D	青	にひい褐色 底部のため倒れ不規則
7-2	5號-4	遺物器	瓶	(11.0)	26.4	(18.0)	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ	田松ナダ	E	青	白白色 罐部へり記号あり
8-1	7號-11	遺物器	杯	12.2	-	3.7	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	E F	青	黄褐色 底部へり記号あり
8-2	7號-16	遺物器	杯	11.0	-	4.2	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B C E	青	黄褐色 完形、底みあり
8-3	7號-17	遺物器	杯	12.5	-	4.0	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B F	青	黄褐色 罐部
8-4	7號-22-24	土器器	杯	10.8	-	4.9	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	A B C D	青	黄褐色 底部
8-5	7號-20	土器器	杯	(12.2)	-	4.0	ナダ?	ナダ?	ナダ?	D E	青	黄褐色 底部
8-6	7號-12	土器器	瓶	13.8	-	3.02	不純、ケズリ?	不純、ケズリ?	不純、ケズリ?	A C	青	にひい褐色 底部のため倒れ不規則
8-7	7號-9	土器器	杯	(17.0)	-	11.1	不純	不純	不純	A B	青	黄褐色 底部
8-8	7號-18	土器器	瓶	(16.0)	-	8.9	ナダ?ハラスナダ?	ナダ?	ナダ?	A B D	青	黄褐色 底部
8-9	7號-3	土器器	瓶	(20.7)	-	21.0	ハラスメ	ケズリ	田松ナダ	A B C H	青	にひい褐色 底部
8-10	7號-9・17・7罐	土器器	瓶	(20.0)	-	19.0	ナダ?ヨコナダ	セヌリ、ヨコナダ	田松ナダ	A B C D E	青	黄褐色 底部
8-11	7號-14	土器器	瓶	(14.0)	-	19.2	ナダ?ヨコナダ	セヌリ、ヨコナダ	田松ナダ	A C H	青	にひい褐色 底部
10-1	9號-2	土器器	杯	(11.2)	-	14.0	ナダ?	ナダ?	ナダ?	A B C D	青	黄褐色 底部
10-2	9號-10	土器器	杯	(19.2)	-	13.5	ナダ?	ナダ?	ナダ?	B D E	青	黄褐色 底部
10-3	9號-1	土器器	瓶	13.1	-	14.5	ナダ?	ナダ?	ナダ?	B D	青	黄褐色 杯部のみ、底みあり
10-4	10號-9	遺物器	杯	11.3	-	3.2	田松ナダ、ヘラシ	田松ナダ	田松ナダ	E	青	黄褐色 底部
10-5	10號-7	土器器	瓶	-	11.5	0.60	ナダ?不純	ケズリ	田松ナダ	B C	青	黄褐色 底部のみ、瓶底部に真黒あり
10-6	10號-10、11、20號-10	遺物器	瓶	24.8	-	12.0	田松ナダ	田松ナダ、ホラシ	田松ナダ、ホラシ	E	青	黄褐色 罐部
11-1	11號-1	土器器	瓶	19.4	-	4.3	田松ナダ	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	A B C D E	青	黄褐色 底部
11-2	12號-1	遺物器	杯	(10.4)	-	3.8	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	A B D	青	黄褐色 底部
11-3	12號-1	土器器	瓶	(10.8)	-	5.2	ナダ、接脚底底	ヘラクシ、ナダ	田松ナダ	A B C D E	青	黄褐色 底部
11-4	12號-1	土器器	瓶	(18.0)	-	2.8	ナダ?ナダ?ナダ?	ナダ?、ヨコナダ?	田松ナダ	A B C D E	青	黄褐色 底部
11-5	12號-3、4、6土、10號-12-14	遺物器	瓶	16.0	-	19.0	田松ナダ、ヘラクシ	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	A B C E	青	黄褐色 底部
12-1	14號-17	遺物器	杯	10.0	-	4.5	田松ナダ?	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	A B C D E	青	黄褐色 底部
12-2	14號-1	遺物器	瓶	(8.0)	-	3.0	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ	田松ナダ	E F	青	黄褐色 内面にへり記号あり
12-3	14號-11	土器器	瓶	(21.0)	-	19.7	ハラス、ヨコナダ	セヌリ、ヨコナダ	田松ナダ	A C D E	青	黄褐色 外縁に底座底のため調整不規則
12-4	14號-10	土器器	瓶	(18.0)	(24.5)	19.0	ハラス、ヨコナダ	セヌリ、ヨコナダ	田松ナダ	A C E	青	にひい褐色 底部
12-5	14號-3-4、6土、12號-1	土器器	瓶	-	11.0	18.0	ハラス	ケズリ	田松ナダ	A C E	青	黄褐色 瓶底
13-1	17號-1	遺物器	杯	(10.0)	-	11.0	田松ナダ?ヘラシ?	田松ナダ	田松ナダ	A B	青	白白色 附土灰
13-2	17號-17	遺物器	杯	12.0	-	4.8	田松ナダ?田松ナダ?	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	E F	青	黄褐色 内面にへり記号あり
13-3	17號-17	土器器	瓶	(11.0)	-	5.2	ナダ?	ナダ?	ナダ?	A B C D F	青	黄褐色 底部
13-4	17號-2、20號-1	土器器	瓶	(21.0)	-	17.0	ナダ?ナダ?ナダ?	ヘラクシ、ナダ?	田松ナダ	A B C D E	青	にひい褐色 底部
16-1	20號-10	遺物器	杯	12.0	-	3.8	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B E	青	黄褐色 罐底
16-2	20號-10	遺物器	杯	(13.0)	-	4.1	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ	田松ナダ	A E	青	黄褐色 底部
16-3	20號-35	遺物器	杯	16.0	-	3.6	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B C E	青	黄褐色 底部
16-4	20號-30	遺物器	杯	(10.0)	-	4.1	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B D E	青	黄褐色 底部
16-5	20號-4	遺物器	杯	(11.0)	-	3.9	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	E	青	黄褐色 底部
16-6	20號-44	遺物器	杯	(11.4)	-	4.6	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B E F	青	黄褐色 底部
16-7	20號-7	遺物器	杯	(12.8)	-	3.7	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	A B C D E	青	黄褐色 底部
16-8	20號-14	遺物器	杯	(11.0)	-	4.0	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B C E F	青	黄褐色 底部
16-9	20號-30	遺物器	杯	(13.0)	-	3.7	田松ナダ(底面ハラス)	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	C	青	黄褐色 底部
16-10	20號-1	遺物器	杯	14.0	-	3.2	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	田松ナダ、ナダ	B E F	青	黄褐色 底部
16-11	20號-1	遺物器	杯	14.0	-	8.9	54	田松ナダ?田松ナダ?	田松ナダ、ナダ	B E	青	黄褐色 底部
16-12	20號-1	遺物器	瓶	(14.0)	-	(5.5)	田松ナダ、ナダ?	田松ナダ、ナダ?	田松ナダ	E F	青	黄褐色 口縁部のみ

第3表 土器観察表②

測量番号	測量名	種別	種類	底面			側面			色調	備考	
				外壁	内壁	底土	底成	外壁	内壁			
16-13	20幅-40	遺物器	縦	-	10.4	-	(31.1)	凹輪ナメ、カキ目	凹輪ナメ、ナメ	E.F	青 灰白色	底部外壁にはチヌ状に自然剥がかる
16-14	20幅-23・42	遺物器	縦	-	12.0	(8.1)	-	凹輪ナメ、カキ目	凹輪ナメ、ナメ	E	青 灰白色	縫合部灰色
16-15	20幅-19	遺物器	高井	-	10.8	(3.0)	-	凹輪ナメ	凹輪ナメ	A.D.E	青 灰白色	底部外壁
16-16	20幅-	遺物器	縦	(15.2)	-	(4.4)	-	凹輪ナメ、カキ目	凹輪ナメ	B.E	青 灰白色	縫合のみ
16-17	20幅-33	遺物器	縦	(7.0)	19.2	-	(10.8)	不規	不規	B.H	青 灰白色	縫合不良の遺物器
16-18	20幅-11	土器鉢	縦	(33.0)	-	(33.1)	-	ハケメ、ヨコナメ	ハケメ、ヨコナメ	A.C.D.H	青 灰白色	底部外壁にはチヌ状に自然剥がかる
16-19	20幅-31	土器鉢	縦	(10.0)	-	(10.0)	-	ハケメ、ヨコナメ	ハケメ、ヨコナメ	A.B.C.E	青 灰白色	縫合不良の原因不明
16-20	20幅-31	土器鉢	縦	(20.0)	(24.0)	(20.0)	-	ハケメ、ヨコナメ	ハケメ、ヨコナメ	A.B.C.E	青 灰白色	外壁に異色あり
16-21	20幅-	土器鉢	縦	-	-	-	-	ナメ	ナメ	A.C	青 灰白色	縫合部灰色
16-22	21幅-	土器鉢	縦	-	-	-	-	ナメ	ナメ	A.C	青 灰白色	縫合部灰色
16-23	21幅-	土器鉢	縦	-	-	-	-	ナメ	ナメ	A.C	青 灰白色	縫合部灰色
17-1	24幅-26幅-19.3	遺物器	井	-	(3.0)	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ	B.E.F	不規	灰白色	底部外壁 (13.0)	縫合部
17-2	26幅-1-2	遺物器	井	18.2	-	14.8	2.3	凹輪ナメ	凹輪ナメ	A.C.E.F	青 灰白色	縫合部灰色
17-3	24-26幅	土器鉢	小畠	7.6	-	6.3	1.0	凹輪ナメ	凹輪ナメ	C.G	青 灰白色	底部外壁には細かく剥がれ
19-1	29幅-29幅-1	土器鉢	井	(15.0)	-	2.6	-	ナメ	ナメ	A.C.D.E	青 灰白色	縫合部灰色
20-1	31幅-4	土器鉢	高井	12.2	-	10.1	4.8	ハラケヌリ、ナメ	ナメ	A.B.C.D.E	青 灰白色	全体的に底部の縫合不良
20-2	31幅-2	土器鉢	井	(10.0)	-	-	4.4	ナメ	ナメ	A.B.D	青 灰白色	縫合部
20-3	31幅-1-3	土器鉢	高井	(11.0)	11.3	-	-	不規、ナメ	不規	A.C	青 灰白色	縫合部の底部は不規則
20-4	34幅-19.2-26幅-1	遺物器	井	11.8	-	-	4.2	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ、ナメ	B.E	青 灰白色	底部の縫合部
21-1	35幅-1	遺物器	井	12.4	-	-	3.1	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ、ナメ	C.E.F	青 灰白色	縫合部の底部にヘア記号あり
21-2	35幅-	遺物器	井	11.7	-	-	(2.0)	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ、ナメ	E	青 灰白色	底部外壁にヘア記号あり
23-1	36幅-	遺物器	井	(10.0)	-	(2.0)	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ	B.E	青 灰白色	つまみ部分へ向く、外壁背面にヘア記号あり	
23-2	36幅-36幅-5	土器鉢	井	-	-	5.1	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ	B.C.D.E.F	青 灰白色	縫合部	
23-3	36幅-1	土器鉢	井	(33.0)	-	-	5.6	ハラケヌリ・ヨコナメ	ハラケヌリ・ヨコナメ	A.D.E	青 灰白色	縫合部灰色
23-4	36幅-	土器鉢	高井	(33.0)	-	(2.7)	ナメ	ナメ	-	青 灰白色	縫合部灰色	
23-5	36幅-3	土器鉢	高井	14.6	(4.0)	16.2	エラスメ、ヨコナメ	エラスメ、ヨコナメ	A.C.E	青 灰白色	底部の縫合部は縫合部無し、外壁に底部斜角	
23-6	36幅-1-2	土器鉢	井	(28.0)	-	(19.0)	ハケメ、ヨコナメ	ハケメ、ヨコナメ	A.C.E	青 灰白色	縫合部	
23-7	36幅-2-3	土器鉢	井	12.4	(19.1)	-	(18.5)	エラスメ・ヨコナメ	エラスメ・ヨコナメ	A.C.E	青 灰白色	縫合部
23-8	36幅-7	土器鉢	井	(13.0)	(16.0)	(13.0)	ヨコナメ・ハラケヌリ・エラスメ	ヨコナメ・ハラケヌリ・エラスメ	A.C.H	青 灰白色	外壁は縫合部のため調整不良	
23-9	36幅-1	土器鉢	井	(15.0)	(2.0)	(19.2)	ハケメ、ヨコナメ	ハケメ、ヨコナメ	A.C.D.H	青 灰白色	縫合部	
24-1	37幅-2	土器鉢	縫	-	-	12.5	ハケメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ	A.C.E	青 灰白色	底部外壁	
25-1	39幅-5	遺物器	井	(33.0)	-	4.3	凹輪ナメ、ヘタツリ	凹輪ナメ	A.B.D.E	不規	青 灰白色	外壁は縫合部のため調整不良
33-1	1±2	土器鉢	約子	-	(4.0)	-	凹輪ナメ	凹輪ナメ	A.C.E	青 灰白色	縫合部	
33-2	1±2	土器鉢	縦	6.4	9.3	12.5	凹輪ナメ	凹輪ナメ	A.C.E	青 灰白色	縫合部	
33-3	1±2-3	土器鉢	縦	(14.0)	-	(9.0)	不規	不規	A.D.E.F	不規	青 灰白色	縫合部のため調整不良
33-4	1±2-1	土器鉢	高井	-	(4.0)	18.7	凹輪ナメ、ヘタツリ	凹輪ナメ	A.B.C.E	青 灰白色	縫合部	
33-5	0±2	土器鉢	-	(14.0)	-	-	凹輪ナメ	凹輪ナメ	B.C.O.F	青 灰白色	縫合部	
33-6	17±3	遺物器	井	10.8	-	4.1	凹輪ナメ	凹輪ナメ	A.C.E	青 灰白色	底部	
33-7	18±5	遺物器	井	(12.0)	(9.0)	3.7	凹輪ナメ	凹輪ナメ	B.E	青 灰白色	底部	
33-8	18±2	遺物器	井	(13.0)	-	(8.0)	3.8	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ	B.E	青 灰白色	外壁は縫合部へ向く記号あり
33-9	19±2	遺物器	井	11.2	-	3.8	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ	B.E	青 灰白色	底部	
33-10	19±2	土器鉢	-	(11.0)	-	(8.0)	ハラケヌリ・ナメ	ハラケヌリ・ナメ	A.C.C.E	青 灰白色	全体的に縫合部のため調整不良	
33-11	21±2	土器鉢	縫	(14.0)	-	12.8	ハケメ、ナメ	カキ目、ナメ	A.C.E	青 灰白色	縫合部	
33-12	1±1	土器鉢	井	(16.0)	-	10.0	凹輪ナメ	凹輪ナメ	A.C.D.E	青 灰白色	全体的に縫合部	
33-13	1±2	土器鉢	縫	-	-	(10.2)	ハラケヌリ・底部斜角	ハラケヌリ・底部斜角	A.C.E.F	青 灰白色	縫合部のため調整不良	
33-14	19±2	遺物器	井	12.8	-	-	3.8	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ	E	青 灰白色	底部外壁にヘア記号あり
33-15	19±2	遺物器	井	10.8	-	-	3.8	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ	B.C	青 灰白色	底部外壁にヘア記号あり
33-16	19±2	19±2	遺物器	井	(11.0)	-	(3.0)	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ	B.E.F	青 灰白色	底部外壁
33-17	19±2	遺物器	井	(10.0)	-	-	2.0	凹輪ナメ、凹輪ヘタツリ	凹輪ナメ	B.D.E.F	青 灰白色	底部外壁

柱A: 青色石 B: 灰色石 C: 灰石 D: 油色粘土 E: 白色粘土 G: 黑色粘土 H: 粘土

第4表 金属製品・鉄生産関連遺物観察表

検出番号	遺構名	器種	長さ	最大幅	最大厚	重さ	備考
34-1	4土N1	鍔	16.0	3.3	0.7	-	実用。鉄器本体の厚さは10.3mm程度
34-2	包含層	鍔鍼	11.2	2.6	0.6	-	実形
34-3	20堅N4	鍔鍼	(18)	(5.0)	0.25	-	
34-4	20堅N17	鑿?	(8.5)	1.3	0.3	-	
34-5	23堅N1	刀子?	(8.5)	1.7	0.7	-	鉄器本体の厚さは10.25cm程度
34-6	包含層	鑿?	(4.0)	(1.4)	0.1	-	木質付着あり
34-7	22堅N3, 11土	鉄鍔?	(6.5)	1.55	0.3	-	
34-8	4堅N17	鉄鍔	(7.1)	1.1	0.45	-	
34-9	11土 鉄器3	鉄鍔	(6.0)	0.5	0.4	-	
34-10	7堅	鉄鍔	(5.2)	0.4	0.3	-	
34-11	包含層 鉄器5	鉄鍔	(5.8)	0.5	0.4	-	
34-12	10堅	鉄鍔	(4.6)	0.6	0.45	-	厚さはサビを含む
34-13	包含層	鉄鍔	(3.8)	0.7	0.5	-	
34-14	10堅	鉄鍔	(3.1)	0.35	0.6	-	
34-15	7堅	鉄鍔	(4.8)	0.45	0.4	-	
34-16	P20F40BP1	鉄笄?	10.6	3.9	4.8	-	実形か
34-17	包含層	-	1.4	3.1	1.6	-	意味か辻金具の脚?
34-18	包含層	-	3.4	2.1	0.8	-	意味か辻金具の脚?
34-19	-	釘?	(2.15)	1.0	0.4	-	
34-20	20堅N20	耳環	265	32	0.65	-	実用
34-21	2堅	鉄渾	-	-	-	-	実形、楕円渾
34-22	20堅	鉄渾	-	-	-	-	実用、楕円渾
34-23	30堅	鉄渾	-	-	-	-	実形、楕円渾
34-24	P4(G-1BP2)	鉄渾	-	-	-	34.5	分析 (XRF5) 楕円渾(鐵冶渾) 切断渾み
34-25	包含層	鉄渾	-	-	-	55.5	分析 (XRF4) 製鉄渾片 切断渾み

単位: cm・g. ( ) は現存規模

第5表 石器・石製品観察表

擇回番号	遺構名	器種	長さ	最大幅	最大厚	重さ	備考
35-1	包合層	砸石	(3.90)	3.10	(1.15)	(25.4)	泥岩
35-2	包合層	砸石	(2.90)	(2.55)	(2.40)	22.8	砂岩、全面使用
35-3	7型	砸石	(5.10)	3.50	(3.30)	(58.1)	砂岩、4面以上使用
35-4	6型-1	砸石	6.50	4.20	2.30	87.7	砂岩、全面使用
35-5	35型	砸石	(7.35)	(4.25)	(3.55)	(92.9)	砂岩、破損部以外全面使用
35-6	P3F 2区(P14)	砸石	(7.75)	(3.55)	(3.45)	(87.2)	泥岩
35-7	24・26型	砸石？	(7.70)	(9.60)	(1.70)	(97.8)	砂岩、兩底あり、用途不明
35-8	6土	石錐	-	-	-	-	漂石、復元口径：20.8、残存器高：4.7、穿孔あり
35-9	34型	石磨丁	(7.30)	(10.30)	(1.40)	(125.8)	砂岩、未完成、1/2残存
35-10	P5F 1区(P4)	石磨丁	(4.85)	(7.10)	0.80	(26.6)	1/3残存
35-11	4型	磨製石斧	(10.70)	(4.70)	(2.80)	203.5	
35-12	35型	棒状石器	(6.50)	(2.30)	(1.10)	(16.7)	No.63と同一個体か？接点なし
35-13	35型	棒状石器	(6.70)	(2.30)	(1.10)	(21.0)	敲打痕あり。No.62と同一個体か？接点なし
35-14	34型	石錐	(2.60)	1.75	0.50	(1.71)	安山岩
35-15	表保	石錐	2.30	1.50	0.40	0.84	黒曜石
35-16	20型	使用痕剥片	3.15	1.90	1.05	4.37	黒曜石
35-17	12土	使用痕剥片	3.30	1.70	0.65	2.77	黒曜石
35-18	34型	使用痕剥片	2.85	3.40	1.10	8.83	黒曜石
35-19	4型	二次加工剥片	1.65	1.55	0.65	1.52	黒曜石
35-20	4型	二次加工剥片	1.90	3.15	0.95	4.67	黒曜石
35-21	2土	二次加工剥片	2.00	2.85	0.55	3.07	安山岩
35-22	14型	二次加工剥片	3.00	3.30	1.10	6.37	津島産黒曜石
35-23	4型	石核	2.65	2.10	1.95	8.67	津島産黒曜石
36-1	24・26型	打製石斧	(3.90)	(5.65)	(1.20)	36.3	安山岩
36-2	包合層	打製石斧	4.00	6.40	1.35	37.4	安山岩
36-3	20型	打製石斧	(5.60)	(7.35)	1.35	68.5	安山岩
36-4	1土	打製石斧	8.85	4.45	1.20	57.2	安山岩
36-5	22型	打製石斧	(6.95)	(8.45)	(1.40)	95.4	安山岩
36-6	6土	打製石斧	(6.00)	(7.65)	(1.40)	(81.2)	安山岩
36-7	包合層	打製石斧	(7.30)	3.80	1.20	42.7	安山岩、擦痕あり
36-8	20型-3	打製石斧	(8.00)	(5.05)	1.10	49.3	安山岩
36-9	包合層	打製石斧	(8.00)	5.40	1.70	76.1	安山岩
36-10	包合層	打製石斧	(9.45)	(3.80)	(1.20)	44.9	安山岩
36-11	包合層	打製石斧	(9.80)	5.50	1.35	78.6	安山岩
36-12	36型	打製石斧	(10.35)	5.45	1.30	89.2	安山岩
36-13	19土	打製石斧	(9.70)	(7.10)	(1.45)	(141.3)	安山岩
36-14	P1H 2区(P9)	打製石斧	(9.00)	(11.15)	(2.50)	(258.8)	安山岩
36-15	包合層	打製石斧	(12.60)	10.30	3.00	(423.7)	凝灰岩

単位: cm・g. ( ) は現存規模





長迫遺跡全景（南から）

写真図版 2



1・2号竪穴建物跡（西から）



2号竪穴建物跡（西から）



2号竪穴建物跡カマド



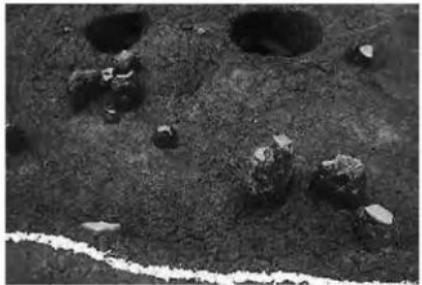
3号竪穴建物跡（西から）



4号竪穴建物跡（西から）



4号竪穴建物跡（北から）



4号竪穴建物跡遺物出土状況



5号竪穴建物跡（西から）



5号堅穴建物跡（南から）



5号堅穴建物跡出土状況



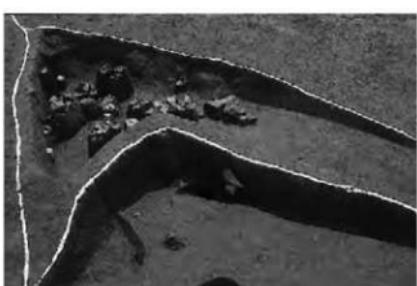
6号堅穴建物跡（北西から）



6号堅穴建物跡出土状況



7・8号堅穴建物跡（西から）



7号堅穴建物跡（西から）



7号堅穴建物跡出土状況



7号堅穴建物跡出土状況

写真図版 4



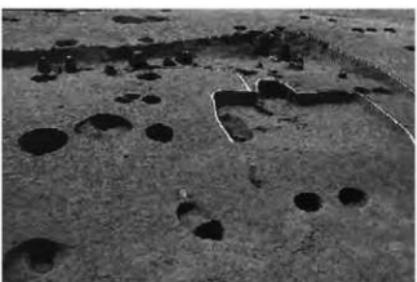
9～11号竪穴建物跡（北西から）



9号竪穴建物跡（北西から）



9号竪穴建物跡遺物出土状況



10号竪穴建物跡（北西から）



11号竪穴建物跡（北西から）



11号竪穴建物跡カマド



11号竪穴建物跡遺物出土状況



12～15号竪穴建物跡（南から）



14号竪穴建物跡（南西から）



16～19号竪穴建物跡（南西から）



16～18号竪穴建物跡（北西から）



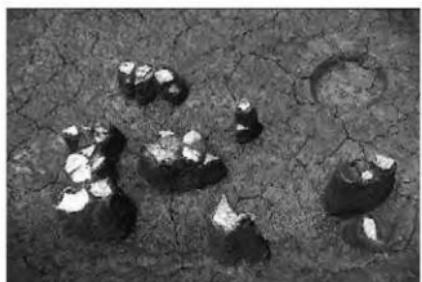
19号竪穴建物跡（北西から）



20・22号竪穴建物跡（北西から）



20号竪穴建物跡（南西から）



20号竪穴建物跡遺物出土状況



20号竪穴建物跡 耳環出土状況

写真図版 6



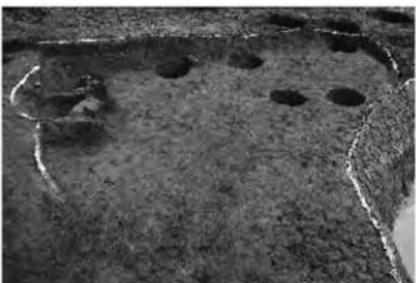
21号竪穴建物跡カマド



22号竪穴建物跡（北西から）



22号竪穴建物跡カマド



23号竪穴建物跡（北西から）



23号竪穴建物跡カマド



24~26号竪穴建物跡、17号土坑（北西から）



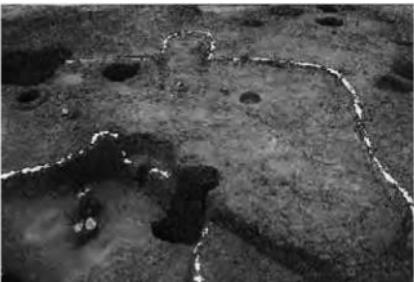
24号竪穴建物跡、17号土坑（南西から）



25号竪穴建物跡（南西から）



26号竪穴建物跡（北西から）



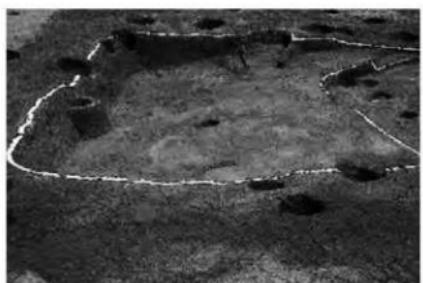
27・32号竪穴建物跡（南西から）



27号竪穴建物跡カマド



28・29号竪穴建物跡（南西から）



28号竪穴建物跡（北西から）



28号竪穴建物跡カマド



29号竪穴建物跡（南西から）



30・32号竪穴建物跡（南から）

写真図版 8



30号竪穴建物跡（南から）



31号竪穴建物跡（東から）



31号竪穴建物跡遺物出土状況



31号竪穴建物跡遺物出土状況



32号竪穴建物跡（北西から）



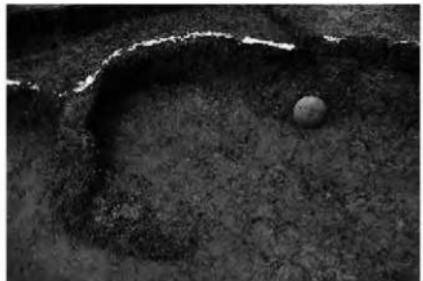
33号竪穴建物跡（西から）



34号竪穴建物跡、1号振立柱建物跡（南から）



35・35-2号竪穴建物跡（南から）



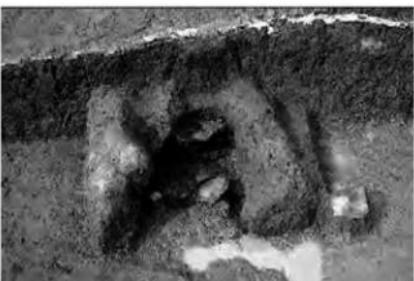
35号竪穴建物跡カマド



36号竪穴建物跡、1号井戸（南から）



36号竪穴建物跡遺物出土状況



36号竪穴建物跡カマド



37号竪穴建物跡（南から）



37号竪穴建物跡カマド

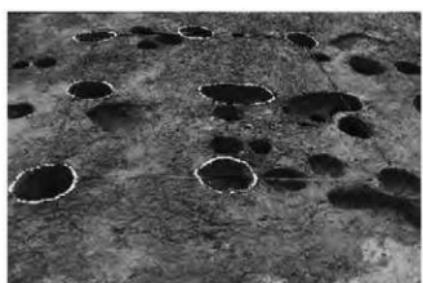


38号竪穴建物跡（南から）



39号竪穴建物跡（南から）

写真図版10





8号土坑（南西から）



11号土坑（北から）



14号土坑（南から）



15号土坑（南西から）



17号土坑（北西から）



19号土坑（南から）

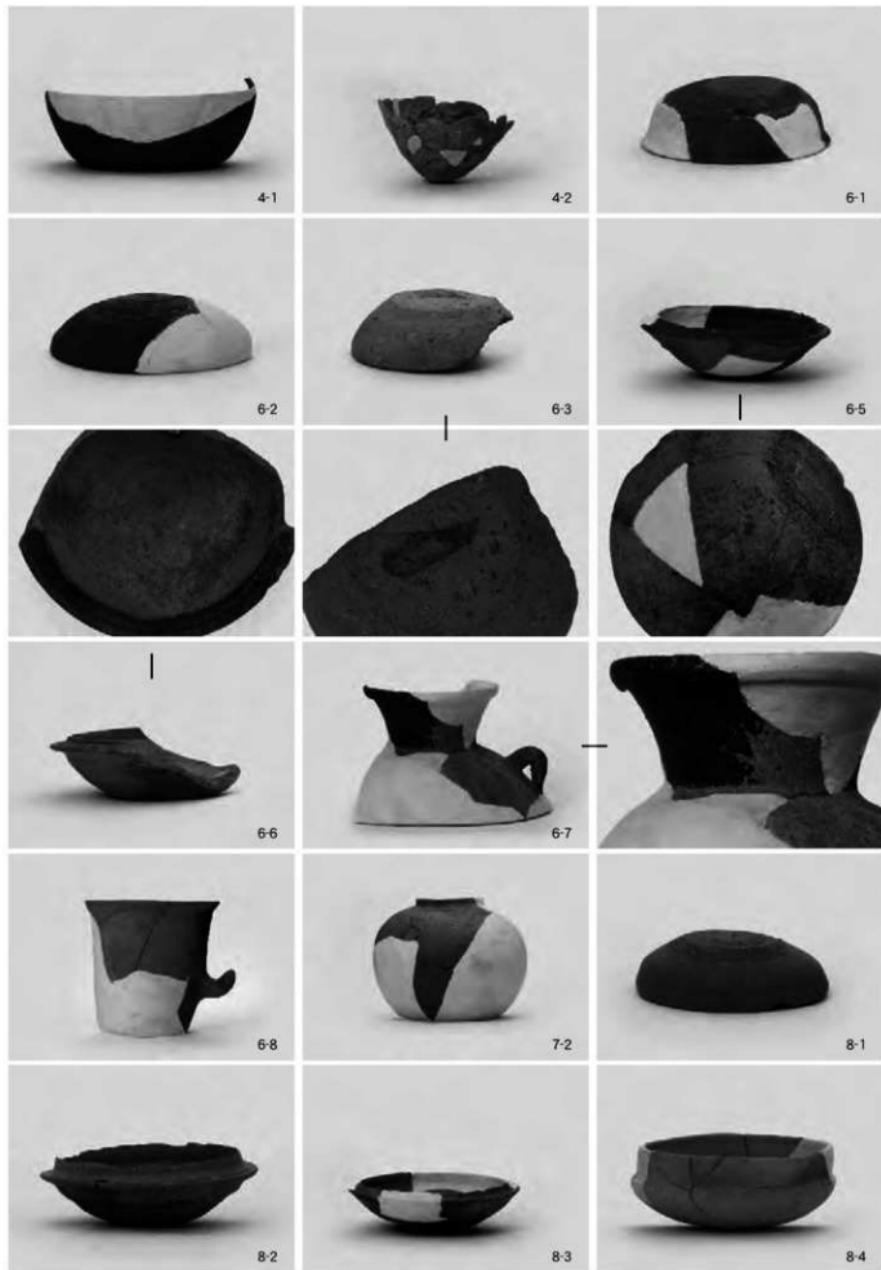


調査区土層



作業風景

写真図版12





8-5



8-6



8-7



8-8



8-9



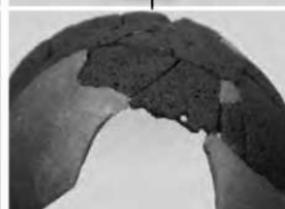
8-11



10-1



10-3



10-4



10-5



10-6



11-1



11-2



11-3



11-5

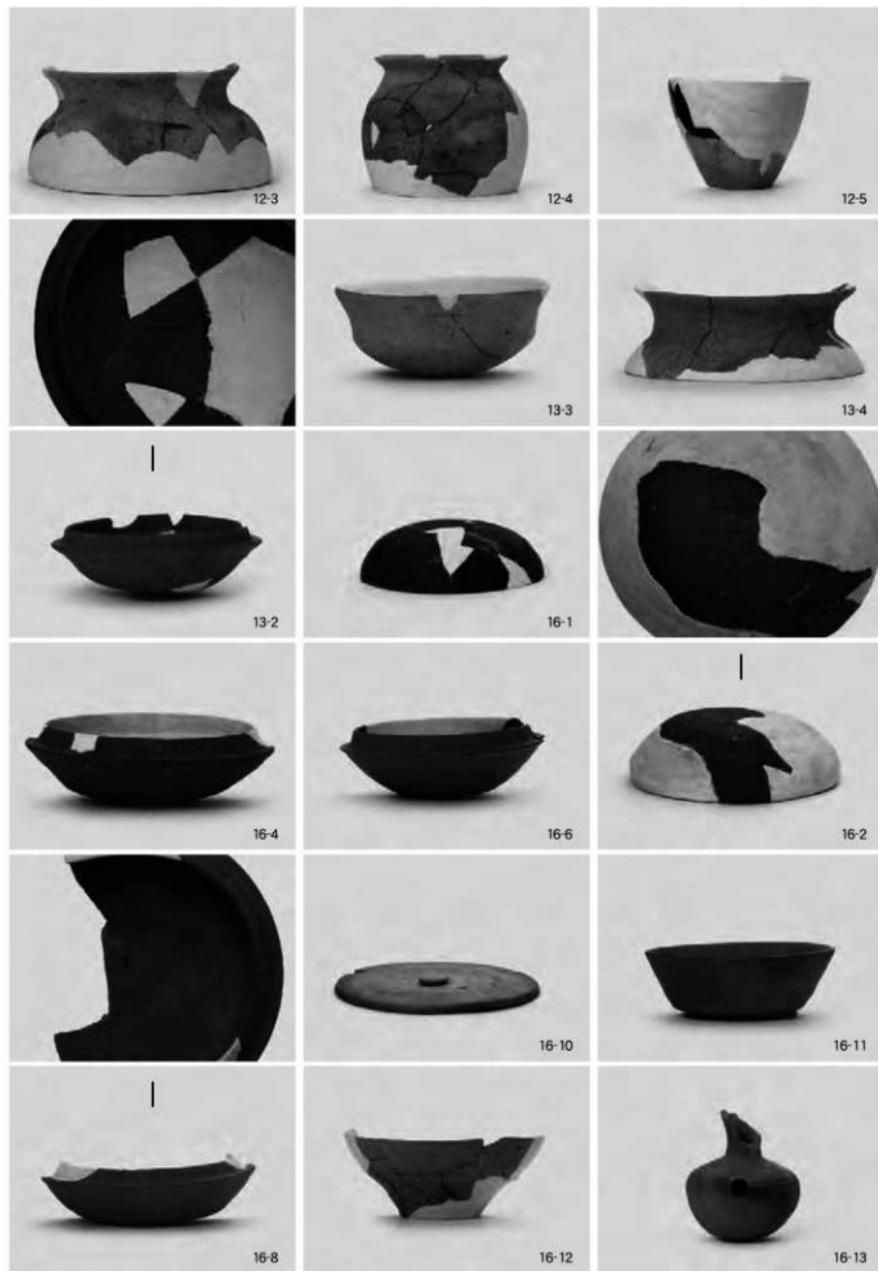


12-1



12-2

写真図版14





16-14



16-15



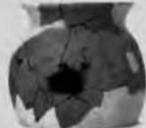
16-17



16-18



16-19



16-20



16-23

16-21



17-1



17-2



17-3



19-1



20-2



20-3



20-4

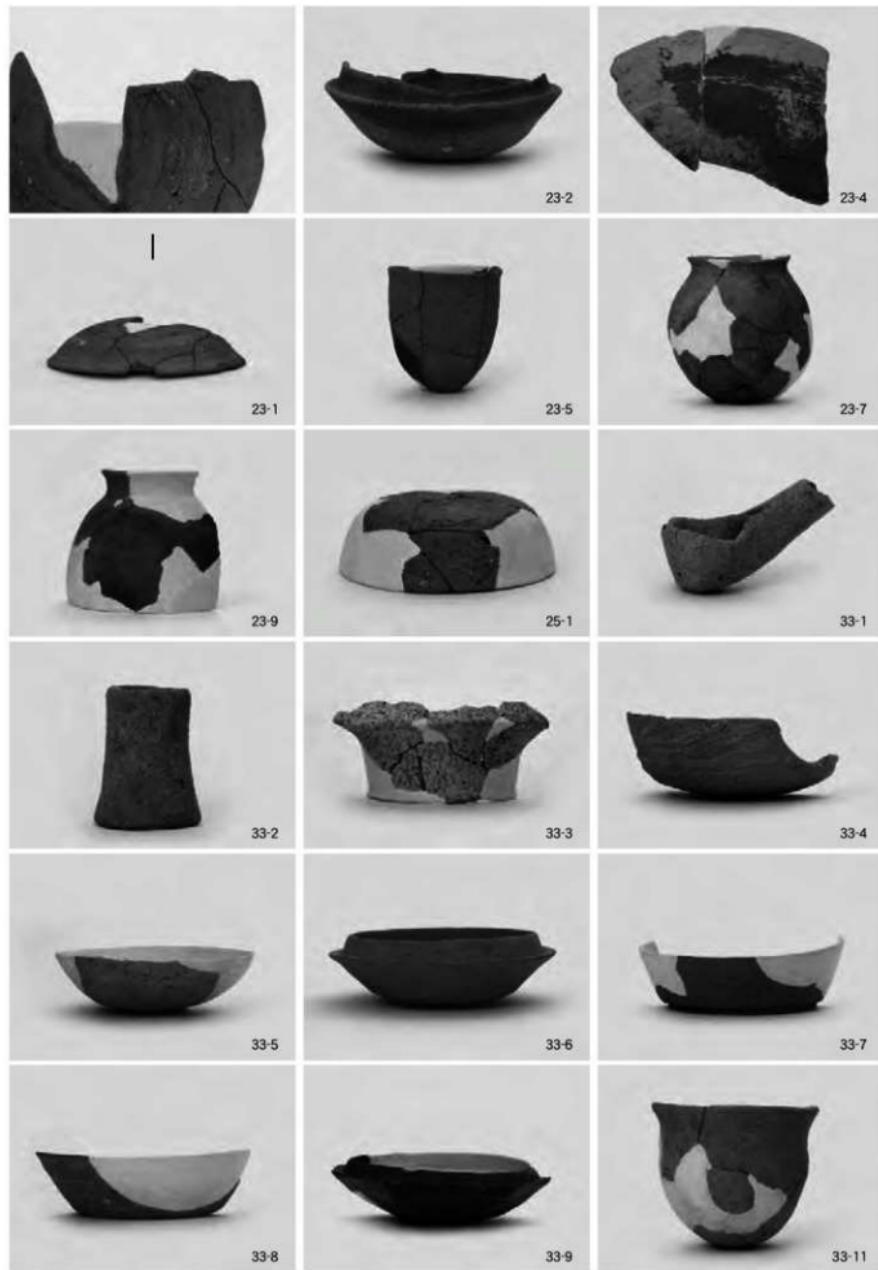


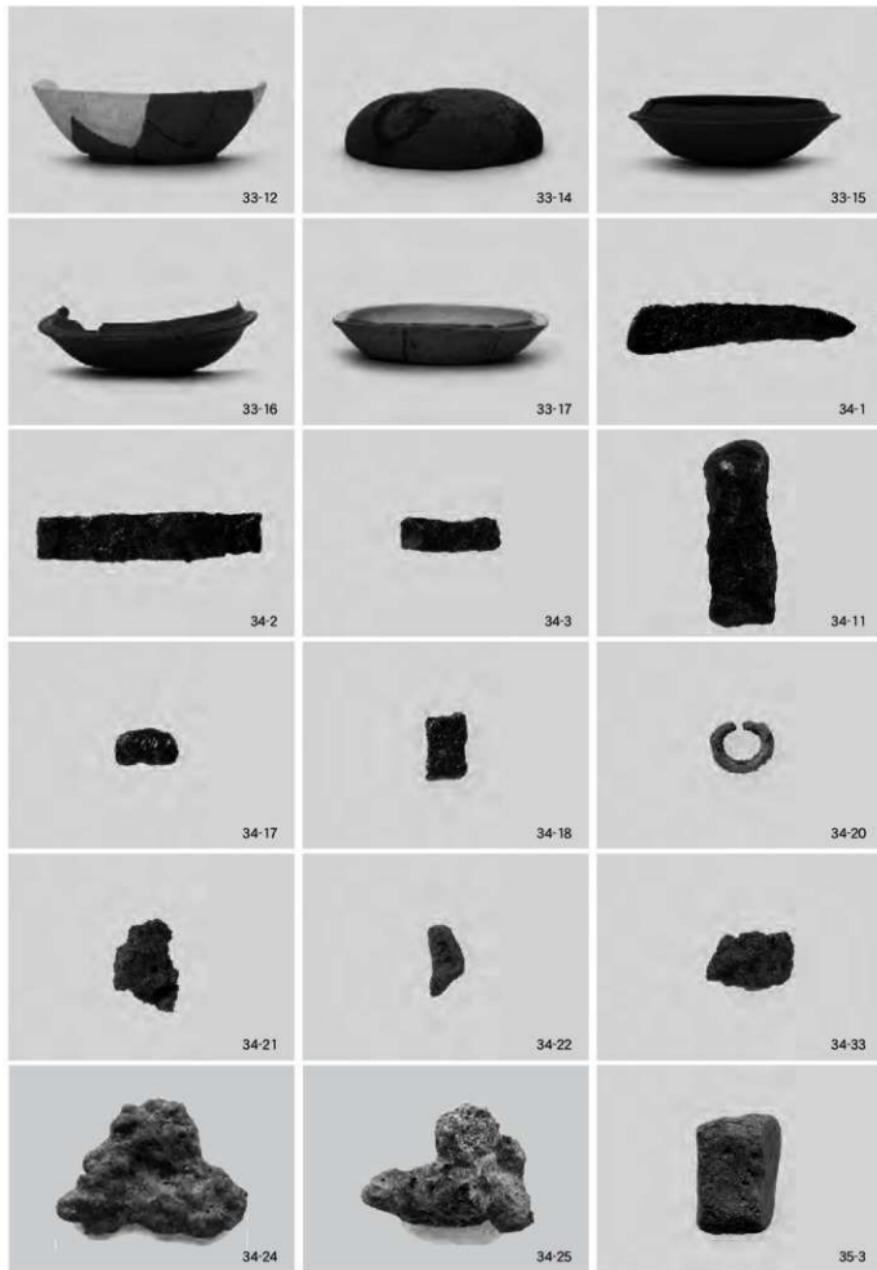
21-1



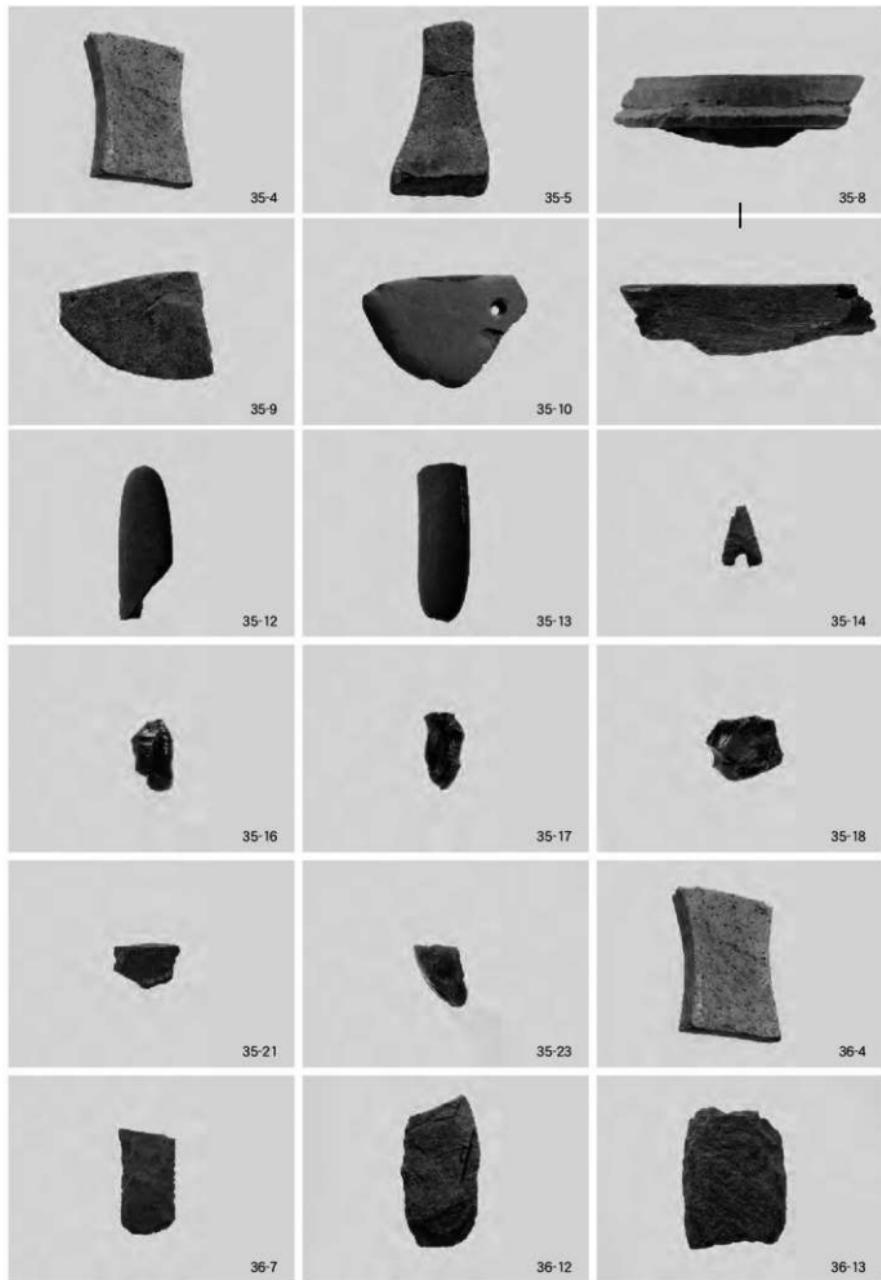
22-2

写真図版16





写真図版18



## 報告書抄録

ふりがな	ながさこいせき びーちてん
書名	長迫遺跡B地点
副書名	
卷次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書／ウッドコンビナート建設推進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第115集／9
編著者名	行時 桂子
編集機関	日田市教育庁文化財保護課
所在地	〒877-0077 日田市南友田町516-1 0973(24)7171
発行年月日	2014年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ながさこ 長迫遺跡 (B地点)	おおいたけん ひいた し 大分県日田市 おおあざりか 大字有田	44204	204223	33°19' 41"	130°58' 1°	1996.12.16 ～ 1997.07.24	3,027 m <sup>2</sup>	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長迫遺跡 (B地点)	集落	古墳～古代	竪穴建物跡42軒、 掘立柱建物跡4棟、 井戸1基、土坑21基、 溝8条	土師器、須恵器、石器・石製品（打製石斧、磨製石斧、砥石、石鍋）、金属製品（鉄釘、鎌、摘鎌、耳輪）、鉄滓	古墳時代後期・ 平安時代の竪穴建物跡より鉄滓 が出土している。

要約	長迫遺跡は日田盆地東部の阿蘇溶岩台地上、求来里川によって生成された沖積地から東部丘陵に向かって入り込む二股に分岐した谷一帯に位置し、今回報告するB地点はそのうちの北側の谷をさす。調査では竪穴建物跡42軒、掘立柱建物跡4棟、井戸1基、土坑21基、溝8条、ピット多数が確認され、出土遺物から概ね古墳時代後期～奈良時代の集落跡と考えられる。
	隣接するA地点では同2時期のほかに平安時代の遺構が検出されているが、本地点ではそれが見られないこと、本地点では竪穴建物跡全体に占める奈良時代の遺構の割合がA地点に比べて低くなっていることなどから、古墳時代後期には小さな谷にまで集落がひろがったものの、不便な立地により次第にA地点や周辺の遺跡に集落が集約されていった可能性が考えられる。 またA地点と同様に、本地点でも古墳時代後期および奈良時代の一部の竪穴建物跡から鉄滓（鍛冶滓）が出土しており、集落内で鉄器などを製作していたと考えられる。

## 長迫遺跡B地点

日田市埋蔵文化財調査報告書第115集

2014年3月31日

編 集 日田市教育庁文化財保護課

〒877-0077 大分県日田市南友田町516-1

発 行 日田市教育委員会

〒877-8601 大分県日田市田島2-6-1

印 刷 尾花印刷有限会社

〒877-0026 大分県日田市田島本町8-8



日 田 市